

地域交流センター活動報告

平成 25 年度



愛媛県立医療技術大学

目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能

II 地域交流センター事業報告

1. 人材育成機能

- 1) 卒業生と在学生の交流事業「ホームカミングデー」
- 2) 臨床検査技術実践講座
- 3) 南予地区臨床検査技師研修
- 4) 思春期保健スキルアップ研修
- 5) 生命科学体験プログラム「ストレスに適応する生体の機能」
- 6) 高校生出張講座ーメディカルトーカー
- 7) おもしろ理科教室
- 8) 夏休みキッズひろば
- 9) とべ子育てフェスタ
- 10) リレー・フォー・ライフ in えひめ
- 11) 科学で身に着ける災害に立ち向かえる力と心

2. 調査研究機能

- 1) 尿沈渣コンサルテーションシステムの構築
- 2) 高齢者の歩行能力の向上と転倒防止等安全を高める健康づくり事業の評価指標の検討
(調査研究)

III 教員の社会貢献活動報告

1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体への専門職や一般の方の相談対応
4. 患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援
5. 行政や各種関係団体に理事・委員等の活動

IV 学生の地域交流活動報告

V 地域への施設開放状況

VI 参考資料

1. 地域交流センターの組織
2. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規定
3. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規定

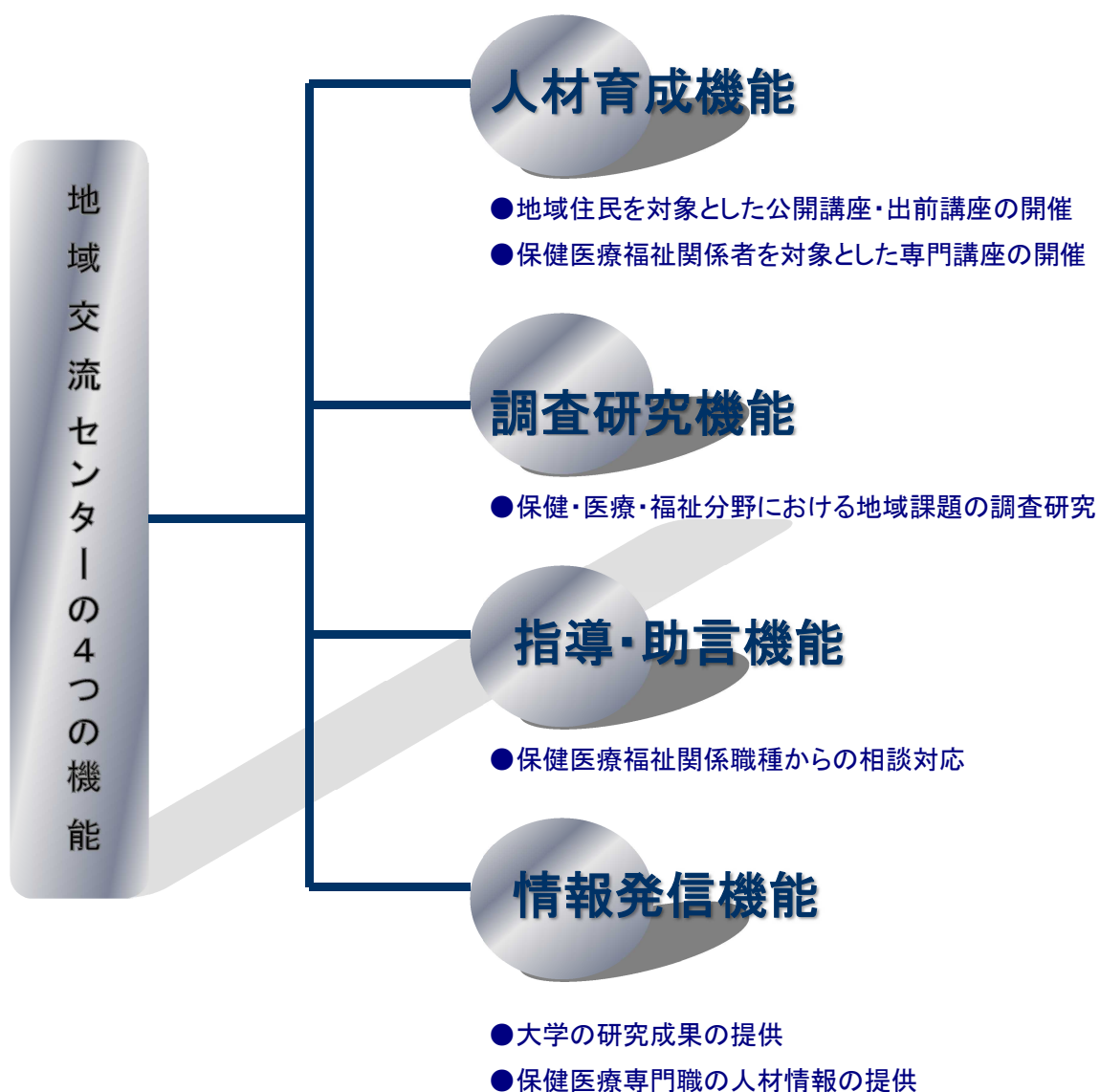
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成 16 年 4 月に設置した。

2 地域交流センターの 4 つの機能



Ⅱ 地域交流センター 事業報告

Ⅱ 地域交流センター事業報告

1 人材育成機能

1) 卒業生と在学生の交流事業「ホームカミングデー」

(同窓会木蓮会との共催事業)

(1) 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

(2) 連携協力機関

同窓会と大学（地域交流センター・学生委員会）の共催事業とする。

(3) プロジェクトチーム

- 今年度は、学外から卒業生を招聘して実行委員会を組織化した。
- 遠方の卒業生参加の便宜を図り、木蓮会総会開催日に併せて実施することとした。
- 特別講演を企画、その内容は職業の専門性ではなく、人間形成に係わるものとした。

【実行委員会】

実行委員長：中越利佳

実行委員：地域交流センター員

センター員以外の実行委員

看護師分野：青木光子講師、柴珠実助教

助産師分野：上野恭子准教授、高田律美助教

保健師分野：田中美延里准教授、奥田美恵講師

臨床検査技師分野：野島一雄准教授

【プロジェクトの進行】

平成 25 年 3 月 18 日 第 1 回実行委員会開催

プログラムの決定

分科会テーマ、ゲストスピーカーの検討

全体会特別講演講師の決定

参加促進方策の検討

3 月 19 日 卒業生へ案内カード配布

4 月 3 日 在学学生案内カード配布

4 月 30 日 ゲストスピーカー、特別講師依頼文書発送

- 5月30日 平成23・24年度卒業生へのHCD 参加案内文書、チラシの発送、所属長への参加依頼協力文書・チラシの発送
- 6月19日 第2回実行委員会開催
作業工程の確認
準備打ち合わせ
- 7月9日 実行委員会HCD反省会
アンケート集計結果
次年度企画への意見集約
- 8月 礼状発送、砥礪記事・センター報告書・木蓮会報記事作成

(4) 事業内容

①日 時：平成25年7月6日（土）10:00-12:30

10:00～分科会 11:45～全体会

場 所：医技大キャンパス、北棟階段講義室ほか

参加者数：117名 内訳：卒業生57名、在学生43名、教員17名

実施内容（講演要旨）

全体会行事：学長挨拶、同窓会長挨拶、学部長講師紹介

特別講演：西村誠明先生（愛媛県立中央病院 病院長）

テーマ

「医療人となる後輩へのメッセージ」

西村誠明先生（愛媛県立中央病院 病院長）の医者としての生き方に大きな影響を与えられた二人の先輩医師のお話をされながら、医療人として身につけておきたいことを語られました。

「医者としての知識や技術を教えられた記憶はない。医者としての生き方を先輩医師の背中を見て学んだ。」という言葉が印象的でした。医療人として何を学び、何を大切にすべきかを考えさせられた御講演でした。



分科会テーマ

分野	分科会テーマ	場所	ゲストスピーカー
看護師	大卒ナースに期待されること	南棟 116 117	増川千紗さん（2011 年卒） 県立中央病院 古森あかねさん（2012 年卒） 田附興風会北野病院
助産師	自立した助産師を目指して ～院内助産開設～	北棟 355	徳岡梨沙さん（2003 年卒） 松山赤十字病院
保健師	ひよこ保健師が語る現場のお話	南棟 218	市川奈積さん（2011 年卒） 広島南区役所 光宗美咲さん（2012 年卒） 松山市地域包括支援センター
臨床検査技師	知っているようで知らない 検査技師活躍の場	南棟 216	高橋知沙さん（2010 年卒） 愛媛県今治保健所 松本葉利奈さん（2012 年卒） よつばクリニック

②参加者アンケートの結果

（回収率 41.0% 卒業生 20、在学生 21）

ア情報源・・・卒業生①案内文書・病院の勧め②教員呼びかけ③同窓会案内・HP
在校生①学内掲示・チラシ②教員呼びかけ③口コミの順で多く回答があった。

イ講演・・・在校生は 66%「とても良かった」、29%「良かった」、特に在校生の心に響く内容であった。

ウ分科会・・・卒業生は「教員や卒業生と話ができて良かった」、在校生は「とても参考になった」等よい評価であった。

エ内容意見：「久しぶりに大学に来ました。育児が一段落したら、復帰します。今日の分科会も 特別講演も刺激を受けました。フレッシュな後輩のみなさんに負けずに明日から頑張っていこうと思います。」

「自分の知識がまだまだ不足していること、これからの目標を立てるよい機会となりました。」

「貴重な講演でした。これからの看護観が大きく変わったので、今後に生かしていこうと思います。」

「分科会では、先輩の仕事内容や思いを聞くことができ、とても参考になった。来年もまた参加したい。」

オ日程意見：日時場所は良かった。（95%）

就職の応募をする前（6 月頃）がよい。

分科会の時間をもう少し長くしてほしい。

☆看護師分野☆

〈参加者数〉在校生 16 名、卒業生 28 名

〈実施内容〉10：00～11：00 卒業生講演

11：00～11：30 在校生・卒業生合同茶話会

〈卒業生講演テーマ〉「大卒ナースに期待されること」

〈ゲストスピーカー〉増川千紗さん（2011 年卒業）愛媛県立中央病院勤務

古森あかねさん（2012 年卒業）田附興風会北野病院

卒業生講演では、増川さんと古森さんが、現職場での活動内容や新人のサポート体制を紹介した。そして、体験を通して培った看護観や人生観を語り、学生時代にいろいろな体験をしてほしいと在校生にエールを送った。



増川さん

手術室看護の経験を重ねてきた増川さんの今後の目標は、人工心肺を使った心臓手術につくこと。写真をたくさん使って周手術期看護を紹介してくれました。

古森さん

職場のユニークな新人サポートシステムを具体的に紹介してくれました。近い将来、新人となる 4 年生は興味津々で聴講していました。



多くの卒業生・在校生が参加して、楽しい交流のひと時がもてました。

☆助産師分野☆

〈卒業生講演テーマ〉『自立した助産師を目指して～ 院内助産開設』

〈ゲストスピーカー〉徳岡梨紗さん（2003年卒業）松山赤十字病院



今年度ゲストスピーカーの徳岡さんは平成15年に本学助産学専攻科を卒業され、助産師として活躍中です。愛媛県内では初めてで、助産師が自立して助産業務を行う「院内助産」を他のスタッフの方と協力しながら本年度開設されました。

院内助産を開設することで、助産師として母子に寄り添え、理想の助産師像に向かっていく先輩の姿は、とても頼もしく感じられた講演でした。



和やかな雰囲気の中で、
話に花が咲きました。



☆保健師分野☆

〈卒業生講演テーマ〉『ひよこ保健師が語る現場のお話』

〈ゲストスピーカー〉市川奈積さん（2011 年卒）広島南区役所

光宗美咲さん（2012 年卒）松山市地域包括支援センター



保健師分野では、行政と地域包括支援センターで保健師として働く卒業生お2名に、現在の仕事内容、卒業から今までのとまどいや悩み・やりがい等を話していただきました。話題提供の後、2グループに分かれての交流会では、和やかなムードの中で、仕事内容や就職試験の悩みについて話が弾んでいました。

☆臨床検査技師分野☆

〈卒業生講演テーマ〉『知っているようで知らない検査技師活躍の場』

〈ゲストスピーカー〉

高橋知沙さん（2010 年卒）愛媛県今治保健所 生活衛生課

松本栞利奈さん（2012 年卒）松山ハートセンターよつば循環器科クリニック

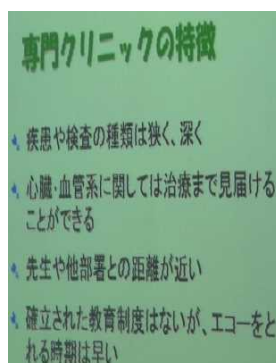
愛媛県職員として、知事部局（保健所、衛生環境研究所）に配属された臨床検査技師の業務について、お話いただいた。特に、現在、高橋さんが在籍している食品監視グループの仕事について、飲食店など食品営業の許可に関する仕事などを、具体的な例をあげて説明されていた。病院検査技師との業務内容の大きな違いに、参加者は驚いていた。



知事部局について説明する
高橋さん



心臓カテーテル治療について説明する
松本さん



循環器専門クリニックの臨床検査技師業務の特徴についてわかりやすくお話いただいた。検査の種類は狭いが、内容は深く、検査のみならず、治療まで見届けることができるということであった。特に、総合病院の検査部より、早くからエコーを撮り始めることができるという点に在學生は感心を示していた。



講演を拝聴する
参加者
親子連れの姿も。

(5) 評価と課題

① ねらい・成果

卒業生にとって・・・新卒者は、同級生と旧交を温め、教員に悩みを相談することで6月病による離職防止となる。中堅者はリフレッシュとキャリアを描く機会として、大先輩や専門看護師等の話を聞きたいと思っている。

在学生にとって・・・卒後2年間の人の話は想像しやすい。就職先を考える参考になるので、6月前の開催がよい。助産学専攻科の実習時期を考慮する必要性がある。

木蓮会総会後のケータリング・ランチが好評。在校生・先輩・教員との良い交流の場になった。

② 広報戦略

就職先への案内郵送は、看護1・2年目でよい。臨床検査は2・3年目がよいか？

木蓮会報・本学HP・砥礪・大学案内等で実施結果の報告を掲載し、印象付けるのが良い。

卒業式・4月のガイダンス時に案内カードを配布し周知する。学内掲示を在学生にとって魅力的なものとする。

③ 運営・開催日程

- 本学の開学記念日とセット（6月20日）に近い土曜日に開催し、建学の精神を確認する日としたい。
- 開催時期を5月、6月、7月、学祭と同時開催、3月第4土曜日、または分野別単独開催とするなどの意見あり。各講座の意見を参考に開催時期を決定する。

今後の方向性

- 学生（4年生中心）と教職員で実行委員会を組織する。
- 教員に積極的に参加してもらうための方策を立てる。

2) 臨床検査技術実践講座

臨床検査技術講座－血液検査分野－

テーマ：技術スキルアップ講座血液検査（第3回）

(1) 概要

ア 目的

血液検査を専門とする現場検査技師に有用と考えられる3講演を行った。

イ 対象者

県内臨床検査技師

(2) 主催および協力団体

主催：愛媛県立医療技術大学地域交流センター

協力：社団法人愛媛県臨床検査技師会

ア 講師

坂東史郎 講師（プロジェクトリーダー）

横井浩（ベックマン・コールター学術統括部門）

新家敏之（愛媛大学医学部附属病院診療支援部）

イ 準備担当

岡村法宜 助教（地域交流センター員）

(3) 事業内容

ア 日時

平成26年3月1日（土）14:00～17:30

イ 場所

愛媛県立医療技術大学150階段講義室

ウ 参加者数

愛媛県内臨床検査技師64名

エ 実施内容

－技術スキルアップ講座血液検査－（第3回）

講演1 数値変化の情報を捉える（貧血・感染症の機序等々）

ベックマン・コールター

学術統括部門 横井浩

講演2 赤芽球系・巨核球系・間質細胞の形態学的特徴について

愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科

生体情報学講座 坂東史郎

講演3 造血器悪性腫瘍の発症機序

愛媛大学医学部附属病院

診療支援部 新家敏之

オ 参加申し込み方法（講師を除く 61 名）

公開講座参加申し込みフォーム：21 名（34.4%）

その他（FAX、メール等）：40 名（65.6%）

カ アンケート結果（回収 53 名）

① 性別

男性 10 名（18.9%） 女性 43 名（81.1%）

② 年代

20 才代：21 名（39.6%）

30 才代：14 名（26.4%）

40 才代：10 名（18.9%）

50 才代：5 名（9.4%）

60 才代：3 名（5.7%）

③ 講座を知ったきっかけ

職場宛の案内文：48 名（90.6%）

愛媛県臨床検査技師会ホームページ：7 名（13.2%）

地域交流センターホームページ：0 名（0.0%）

その他：3 名（担当者より直接）：0 名（0.0%）

④ 講座内容の理解度

理解できた：13 名（24.5%）

だいたい理解できた：35 名（66.0%）

理解できなかった：5 名（9.4%）

⑤ 期待していた内容との一致度

一致した：19 名（35.8%）

ほぼ一致した：33 名（62.3%）

一致しなかった：1 名（1.9%）

⑥ 開催日時について

適当であった：52 名（98.1%）

適当ではなかった：1 名（1.9%）

⑦ 開催場所について

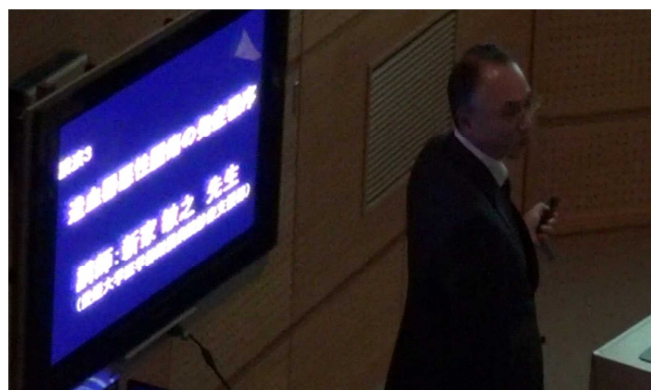
適当であった：51 名（96.2%）

適当ではなかった：2 名（3.8%）

⑧ 自由記載

- ・疾患と血液像の特徴が聞いてみたかった。お疲れ様でした。
- ・講座を開催してくださり、ありがとうございます。いつも励みや刺激を頂いて帰っています。今後も、また宜しくお願いします。
- ・遺伝子が理解できなかった。今回で終わりということでしたが、続けて欲しいと思います。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。

- ・ 1 回目、2 回目の資料を取り寄せたいのですが。形態学の疑問がとても解決されました。とても勉強になりました。
- ・ また機会がありましたら、どこか別の形で宜しくお願い致します。
- ・ 難しい遺伝子をわかりやすく教えていただけて良かったです。でも、まだまだ勉強しないと難しいです。
- ・ 遺伝子が難しかったです。
- ・ ありがとうございました。大変参考になりました。
- ・ 臨床現場で特に遭遇するような症例についてポイントをしばったような内容が聞いてみたいです。
- ・ 講演 3 は難しかった。
- ・ 講演 3 が難しかったです。
- ・ 予定時間に終わらせて欲しいです。
- ・ 机がせまいのできつかった。
- ・ リンパ球について良く思うことなんですが、幼若リンパ球、正常リンパ球、異型リンパ球、異常リンパ球について末梢血、骨髓像で比較してみたいです。



ご講演いただいた 3 名の先生

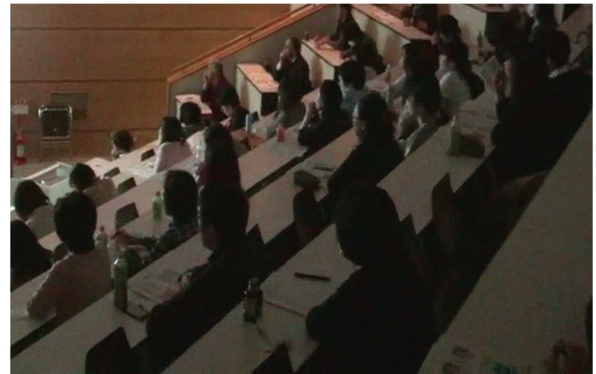
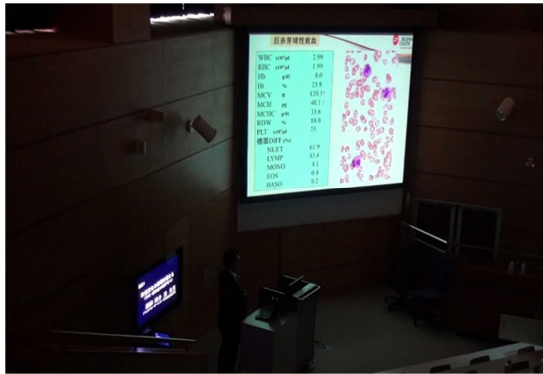
左上：横井先生

右上：坂東先生

左：新家先生

(2) 評価と課題

本講座は、一昨年、昨年に引き続き 3 回目の開催であったが、本年度は最も多くの検査技師の参加が得られた。一方で、講座内容に対する理解度、期待していた内容との一致度が、例年に比べ低い結果となった。この原因として、講演に現場の臨床検査技師に馴染みの薄い内容が含まれていたためと考えられる。例えば、ヒトの重篤な血液疾患である骨髄異形成症候群(MDS)ならびに白血病を引き起こす遺伝子機序については、その一部が実証されてきた段階であり、実験研究的内容を多く含むため、必ずしも日常の検査業務に直結するものとは言い難い。しかし、このような平易とはいえない先端的内容の講演開催に対する希望も少なからずあり、大学で実施するに相応しい内容と考えられる。本事業は、今年度を以て終了するが、次年度以降、他の施設では実施が難しい内容について、県内臨床検査技師のニーズを調査した上で、再開に向けた準備を検討する必要があるだろう。



講演を熱心に聴講する出席者の方々

3) 南予地区臨床検査技師研修

尿細胞診の判定能力向上への取り組み

－南予地域中小規模病院における臨床検査技師への教育支援－

(1) 概要

昨年度より南予地域の尿細胞診の判定能力向上を目的として研修会を行っているが、その中で一般検査を担当する臨床検査技師から体腔液の細胞判定に苦慮しているとの意見があった。一般検査には体腔液中の血球分類が依頼されるが、血球以外の反応性中皮細胞や癌細胞の判定が可能となれば、臨床に有益な情報をフィードバックできるようになる。そこで、今年度は尿細胞診に加えて体腔液細胞診の判定能力向上のための活動を行う。

(2) 実施主体、協力機関

実施主体：本学地域交流センター

協力機関：愛媛県臨床検査技師会、市立八幡浜総合病院臨床検査科、宇和島社会保険病院臨床検査科

(3) プロジェクトメンバー

企画者：大崎博之、則松良明

協力者：此上武典（市立八幡浜総合病院臨床検査技師長）

原 正樹（宇和島社会保険病院臨床検査技師長）

(4) 事業内容

講演・実習：愛媛県臨床検査技師会・県立医療技術大学地域交流センター合同研究会

日時：平成 26 年 3 月 8 日（土）15:00-17:20

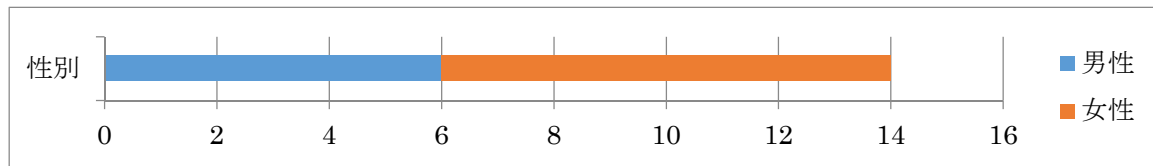
場所：市立八幡浜総合病院 研修室

参加者：17 名

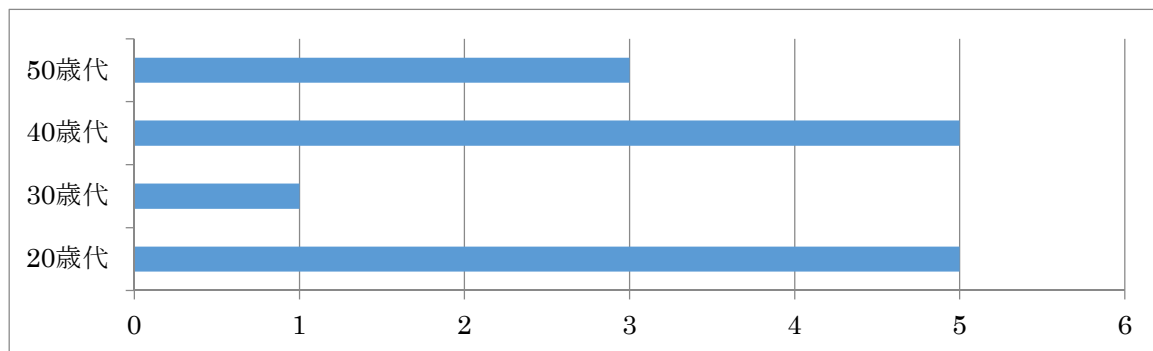
最初に大崎が「ギムザ標本による体腔液細胞診の見方」という演題を講演した後、実際の標本を参加者とともに顕微鏡で観察しながらポイントを解説した。その後、各施設から持ち寄られた疑問症例についても解説した。

(5) アンケート結果：回収率 82.3% (14/17)

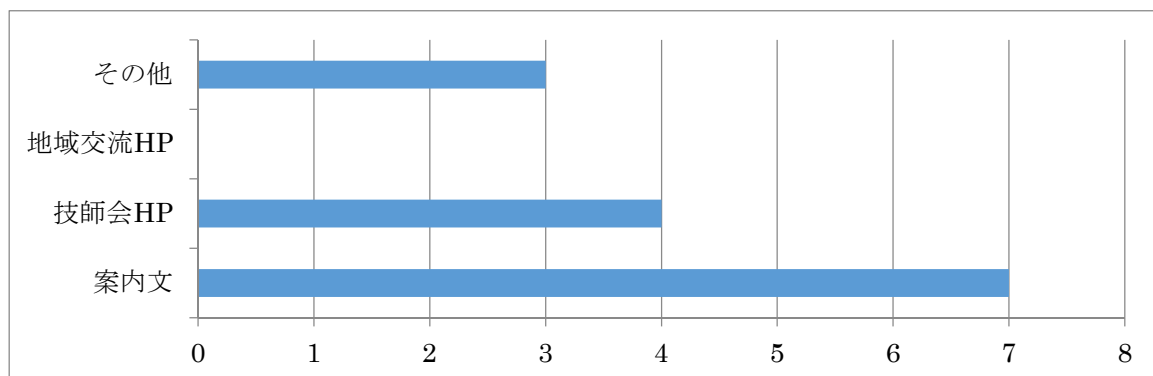
①性別



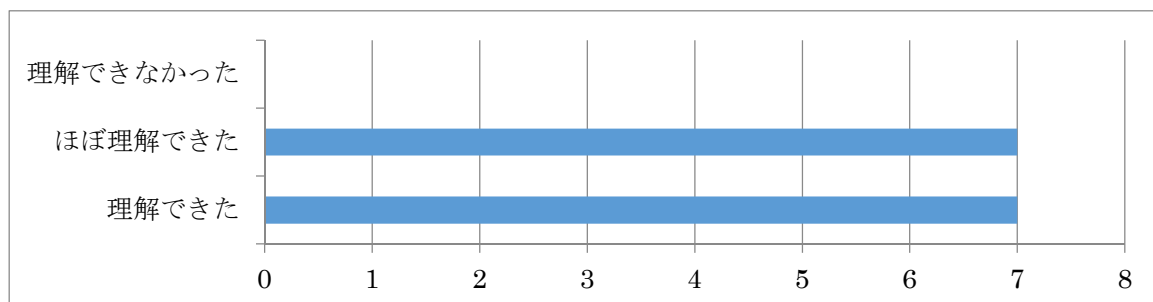
②年齢



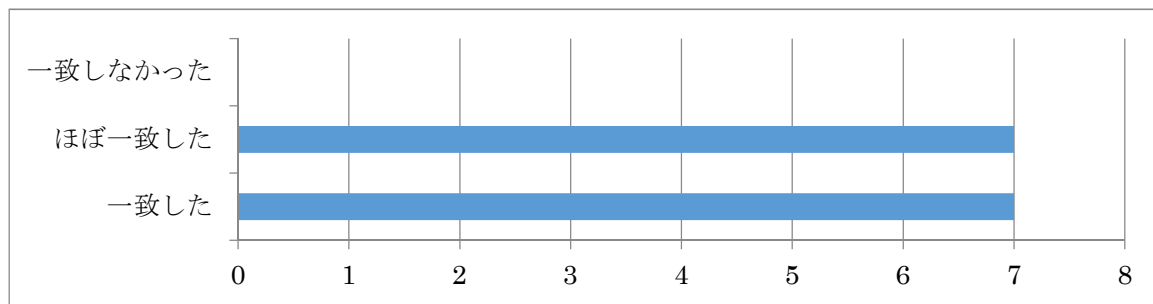
③講座を知ったきっかけ



④講座内容の理解度



⑤期待していた内容との一致度



⑥自由記載

- * ギムザ染色の大切さ、所見のとり方がよく理解できました。
- * 一般検査における体腔液細胞のカウントの仕方、見る場所、報告様式などが理解できました。
- * 日頃疑問に思っていたことが解決できました。ありがとうございました。
- * 今回のように細胞検査士以外の人にも細胞の見方を教えてくれるシステムはありがたいです。ぜひ継続してください。
- * 年度末で忙しく参加できない人が多かったので開催時期を見直してほしい。



写真：講義後の鏡検実習

(6) 評価と課題

アンケート結果や参加者との会話で、企画内容や講義・実習の理解度に対しては高評価を得ているものと考えている。特に南予地域では研修会の開催も少ないことに加え、施設内はもちろん、近隣施設にも指導者がいないことから、今回のような講義の後に指導を受けながら鏡検実習ができる機会は貴重との意見もいただいている。また、一般検査に従事する技師は、細胞検査士の資格を有していないことが多いため中皮細胞や腫瘍細胞など血球以外の細胞形態に関する知識に乏しい。そのため、今回は中予からの参加者も多く、福岡県からも一名参加していた。

反省点として、今回は当学大学院の承認が遅れたことや、会場の都合などで開催日が年度末になったことがある。本企画は今年度で終了するが、今後開催する機会があれば開催時期を夏期～秋期にするなど改善したい。また、アンケート調査より本学地域交流センターのホームページの認知度が低いことが明らかになったため、今後は県内の技師にその存在をアピールしていく必要がある。

4) 思春期保健スキルアップ研修会

(1) 趣旨または概要

①目的

思春期保健に携わる関係者が、他機関の性教育を含めた思春期の健康づくりの取り組みについて知ることができる。また、思春期の子どもたちがコミュニケーション力、性行動の自己決定力を育み、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点に沿って、他機関と連携、協働し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための連携、協働の足がかりの場とする。

②対象者

管内の市町保健師・小学校、中学校、高等学校養護教諭、教諭・PTA 代表者等
思春期保健対策に携わる関係者

(2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県中予保健所
共催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

(3) プロジェクトメンバー

愛媛県中予保健所 感染症対策係 森眞弓 宇都宮美和
難病・母子保健係 藤原美佳 正岡田江子
精神保健係 出森美和 弓達純子 吉田雅美
愛媛県立医療技術大学 上野恭子 中越利佳 豊田ゆかり 野村美千江

(4) 事業内容

ア 日時

平成 26 年 3 月 20 日 9:30～12:00

イ 場所

愛媛県立医療技術大学 南棟 1 階 117 教室

ウ 参加者数

35 名

※参加者内訳 市町保健師 12 人、中学校養護教諭 9 人、PTA 2 人
愛媛県立医療技術大学 4 人 中予保健所 8 人

エ 実施者と実施内容

①講演 「性教育とは」

講師 愛媛県立医療技術大学 助産学専攻 准教授 上野恭子

性教育が目指すものとは、生理的、心理的、社会的側面を含み人間的な総合的教育である。また「思春期」とは人の成長・発達過程のなかの一時期であり、生涯を通じた対策を行い、積み上げていくことが必要である。

また、「性」と構えることなく、日常生活の中で性を意識的に学ぶことが大切である。「思春期とは未来の鍵」であり、生育環境、学校環境、友達関係等、それぞれ抱えている問題はあると思うが、子どもたちがそれを乗り越えて、自他の命を大切にでき、生きていてよかったと思えるような性教育をしてほしい。

②話題提供

思春期の子どもたちが性の自己決定力を育むために

～地域データ等の整理分析と関係機関の聞き取りから～

中予保健所 感染症対策係 専門員 宇都宮美和

愛媛県における HIV 患者の特徴や、関係機関への聞き取りから得られた声をもとに、思春期の子どもたちが、主体的に性感染症予防行動がとることができるようになるために、支援者や地域社会がどのように対策をすればよいかについての投げかけがあり、今回の研修会をきっかけに、地域社会、学校、保健行政がともに連携・協働・継続して対策を進めていくことへの提言があった。

③意見交換・グループワーク

ア テーマ

「自組織の思春期保健・性教育の取り組みの現状と課題、そして今後の課題」

イ 方法

付箋を用い、講話や話題提供を聞いて性教育について性教育について再確認した点や気づきのあった点、また今後の課題について話し合った。

オ 参加者の反応

ア アンケート回答者数 18 人

回答者内訳 保健師 9 人、 養護教諭 8 人、その他（PTA） 1 人

イ 研修の活用度

大いに活かせる 13 人 {保健師...6 人、養護教諭...6 人、その他...1 人}

多少活かせる 5 人 {保健師...3 人、養護教諭...2 人}

活かさない 0 人

わからない 0 人

ウ 参加者の感想（抜粋）

- ・上野先生のお話からの気づきや、他市町の保健師、養護教諭との情報交換がとても役立った。
- ・上野先生のお話を伺い、ぜひ本校職員にも聞いてほしいと思いました。職員研修で企画できるよう、研修主任に働きかけたい。
- ・学校だけでは限界があり、学校と地域の連携はとても大切。日頃抱えている思いが共有できた。
- ・性教育の目的を改めて認識することができたので、生徒へ伝えたい、伝えるべきことが広がった。

エ 研修会の写真

(ア) 講演 (愛媛県立医療技術大学 助産学専攻 上野恭子准教授)



(イ) 話題提供 (中予保健所 感染症対策係 宇都宮美和保健師)



(ウ) 意見交換・グループワーク



（５）評価と課題

各機関の思春期教室の取り組み状況を共有する中で、現状は様々であったが、それぞれの立場で今後の取り組みや課題等について検討、共有することができ、今後、他機関と連携、協働し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための足がかりの場となったと考える。

今回の研修会では、母子保健の一環として思春期を捉えることや、学校・保護者・地域で取り組む必要性等を関係者間で共有できた。今後も、思春期教室にあたる支援者のスキルアップや、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点に沿って、他機関と連携、協働し、組織的かつ継続的に思春期教室が実施できるよう、継続して研修会を開催していきたい。

（６）資料

１）講演抜粋 「性教育とは」

講師 愛媛県立医療技術大学助産学専攻科 上野恭子准教授

２）話題提供 「地域データの整理分析と関係機関の聞き取りから」

話題提供者 中予保健所感染症対策係 宇都宮美和専門員

３）追加資料 愛媛県中予保健所

「小・中学生用性教育媒体 CD-ROM（平成 21 年愛媛県作成）」の活用状況

<謝辞>

本研修会の開催にあたり、松山市教育委員会から下記の冊子を 40 冊寄贈いただきました。中予保健所ならびに管内の全市町、小・中学校において活用させていただきます。ありがとうございました。

○松山市 性に関する指導資料作成委員会作成・編集 （150 頁）

松山市教育委員会発行 『LIFE ～生きていくこと～』 2012 年

資料1) 講演抜粋 「性教育とは」

講師 愛媛県立医療技術大学助産学専攻科 上野恭子准教授

性教育とは？

2014.3.20 上野恭子

性教育の日本の歴史的変遷



性教育の時代背景と歴史的変遷

大都會関係	学校関係	時代背景
昭和22年：純潔教育の実施通達 昭和24年：純潔教育基本法 昭和30年：純潔教育の進め方 昭和33～35年：学習指導要領改定	34年：保健教育の位置付け	売春・性病 犯罪の増加 伝統的道徳の崩壊
昭和43～45年：学習指導要領改定	純潔教育 純潔教育批判 人間教育、全人教育 外国の性教育の紹介 青少年の性行動分析 教材研究	性情報 性描写の記載 少年犯罪・中性犯罪 増加 フリーセックス 性教育ブーム
昭和48年：小学校保健指導手引き 昭和52～53年：学習指導要領改訂	56年：ライフサイクルと性 57年：思春期妊娠 59年：性情報と性教育 62年：エイズ教育 63年：性の自覚	新しい性病の増加 思春期妊娠 中絶の増加 商品化された性情報 開放的な性意識
昭和61年：性と指導における性に関する指導 平成元年：学習指導要領改訂		

リプロダクティブヘルス／ライツ

- 1994年カイロ国際人口会議：ICPDで提唱
 - 従来の家族計画との違い
- 生殖可能な年齢の女性の健康だけでなく生涯にわたる幅広い健康を指しており、家族計画・母子保健・性感染症（HIV/エイズを含むなど）他の生殖に関する健康問題と連携させた包括的なアプローチを目指している。また男性や若者にもこれらの問題に対して配慮を要求している。

- WHOによるリプロダクティブヘルス基本的要素

- ①人が次世代を産み育てることが出来る
- ②女性自らが妊孕性を調節出来ること
- ③すべての女性において安全な妊娠と出産が享受できること
- ④すべての新生児が健全な小児期を享受できること
- ⑤性感染症の恐れなしに性的関係が持てること

女性の生涯を通じた健康

ミレニアム開発目標

いま、皆さんが考えている性教育はどの部分でしょうか

生理学的

- 男女のからだの違い、成長の仕方
- 月経・射精・受精・妊娠・出産のメカニズム
- 避妊・性感染症

心理学的

- 性意識や異性意識の発達
- 男女の性的欲求と性行動の特徴
- 男女交際や性の悩み、同性愛など多様な性の在り方

社会学的

- 生物学的性別ではなく、女らしさ男らしさ
- 家庭や社会における男女の役割、男女間の平等など
- 結婚と離婚、家族計画、性の被害・加害、性暴力被害者

ブロスの思春期発達論

発達段階	年齢	主要な対象関係
前思春期	小学校高学年(10～13歳)	同性同年代集団(徒党)
思春期前期	中学生(13～15歳)	親友関係(1対1)
思春期中期	高校生(15～18歳)	集団での異性関係
思春期後期	大学生(18～23歳)	プラットニックラブ、恋愛

何故、思春期は大きくとらえられるのか？

- ライフサイクルから考えると成長・発達が著しい
- 様々な健康および心理・社会的な問題が生じやすい
- 個々人によって、成長発達過程に違いがある。一律にそうあるべきでは解決できないのが思春期

資料2) 話題提供 「地域データの整理分析と関係機関の聞き取りから」

話題提供者 中予保健所感染症対策係 宇都宮美和専門員

【3.20 思春期保健スキルアップ研修会】

思春期の子供たちが性行動の自己決定力をつけるために
～地域データ等の整理分析と関係機関への聞き取りから～

中予保健所 健康増進課
感染症対策係(保健師) 宇都宮 美和

現状(量的)

地域データ等の整理分析より

中予保健所実施のアンケート調査比較 (H15年度・H21年度) HIV抗体検査受者数推移及び来所時アンケートより(H24年度) 愛媛県HIV感染者・エイズ患者、性器クラミジア感染症の現状	●性知識の低下・性情報の知識不足の低下 ●保護者は、学校教育の中で避妊指導との協働教育を期待 ●性についての情報源は、学校の授業が大きく低下 (H15年度 73.3%⇒H21年度 27.6%) テレビ・マンガ(コミック)からの情報増加 ●受検者数の低下 ●性交渉時のコンドームを常に使用は3割。不規則使用が6割 ●インターネットからの情報収集が7割 ●診断時には「いきなりエイズ患者」が全国よりも多い(全国 31.6% 愛媛 43.3%) ●10代～20代の感染者が多い。
--	---

現状(質的)

対象者・関係機関インタビューより

思春期の子供たち	●学んだことを自分のこととして覚える力が足りない ●自己決定力の低下 ●情報に惑わされている ●性情報を得たくない生徒が多い
支援者	●性教育の知識や情報不足 ●各機関で実施しているが連携体制が不十分 ●単発的な教室の開催 ●評価指標が不十分
地域	●性に関する情報の氾濫 ●SNS上のコミュニケーションなど、実際に顔を向き合わせて心を通わす「人と人のつながり」の希薄化

●10代の若者が知りたいと思う性感染症情報と、今後何年代に伝えたいこと

- *性感染症はなぜ広がるのか
- *感染者の体験談
- *他人事意識からの脱却
- *自己肯定感の向上と自分のライフ設計をたてることができるような教育

思春期の子どもたちに将来どうなってほしい?
～関係機関へのインタビューより～

自己肯定感が育ち、将来自分の家族も大切にできる大人になってほしい

性は本来素敵なもの。性を前向きにとらえられるようになってほしい

今後直面するであろう性の諸問題に適切に対処する力を身につけて欲しい

性被害にあわない加害者にならない

こころとこころのつながりで、人とつながることが「うれしい」「楽しい」「気持ちいい」と感じてほしい

今後のアクションプラン

思春期の子どもたち	●性教育等でピアエデュケーションを導入し、同世代からの啓発を導入 ●参加型の思春期健康相談の開催 ●コミュニケーション力の育成 ●保護者へのアプローチ
支援者	＜重層的な思春期保健ネットワークづくり＞ ～地域資源との連携・協働～ ●性教育・思春期保健に携わる人材のスキルアップ研修会の開催(H25年度) ●継続した思春期保健推進委員会の開催(H26年度以降継続実施)
地域 ～思春期の子供たちを取り巻く環境への働きかけ～	●ホームページ・マスメディアの効果的な活用 ●若年層が集まる場でのエイズキャンペーンの実施 ●協賛団体の募集・協力 ●NGOと協働した啓発活動の展開 ●HIV抗体検査相談来所者への実施後アンケート

めざす姿は?

- 思春期の子どもたちが主体的に性感染症予防行動をとることができる性行動の自己決定力をつけることができる
- 支援者が関係機関と協働して、継続的に性教育を実施し、思春期の子どもたちの性行動の自己決定力を育むことができる
- 地域社会が性感染症を含めた性の諸問題について関心をもち、適切に対処できる

資料 3) 中予保健所管内における「小・中学生用性教育媒体 CD-ROM」
(平成 21 年愛媛県作成)の活用状況

1. 調査目的

中予保健所管内の市町及び
小中学校における性教育媒体
(愛媛県作成)の認知度及び活
用実態を把握する。

2. 調査方法

文書及び電話取材

3. 調査時期

平成 26 年 1～2 月

4. 結果

管内 5 市町回答あり

(回答率 100%)

管内小学校 34 校中 17 校回
答(回答率 50%)

管内中学校 13 校中 12 校回
答(回答率 92%)

表 1. 小中学生用性教育媒体の認知度及び活用状況

	管内市町		管内小学校		管内中学校	
	件	(%)	校	(%)	校	(%)
回答数	n=5	(100.0)	n=17	(100.0)	n=12	(100.0)
性教育媒体の認知						
知っている	5	(100.0)	12	(70.6)	12	(100.0)
知らなかった	0	(0.0)	5	(29.4)	0	(0.0)
活用状況						
活用している	2	(40.0)	4	(24.2)	10	(83.3)
活用していない	3	(60.0)	8	(47.1)	2	(16.6)
無回答	0	(0.0)	5	(29.4)	0	(0.0)
今後の活用						
継続して活用したい	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(16.6)
内容を見て検討	2	(40.0)	6	(35.3)	1	(8.3)
活用してみたい	0	(0.0)	4	(23.5)	3	(25.0)
活用しない	1	(20.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
わからない	2	(40.0)	7	(41.2)	6	(50.0)

表 2. 具体的な活用状況や生徒の反応

管内市町	・市内中学校の思春期教室で一部加工して（部分的に）使用している ・町内中学生に対する思春期教室で使用
小学校	・保健体育の授業で活用 ・指導内容、発達段階によって ・月経指導時に活用 ・5年生女子の月経指導で活用、月経のしくみなどはとてもわかりやすい ・保健指導で活用できる部分を活用
中学校	・思春期教室での学年集会で活用 ・保健師と行っている思春期教室の資料（スライド）に活用 ・保健体育の授業で活用 ・保健体育・家庭科の授業で活用、女子生徒への月経指導で活用 ・内容を学校の実態に合わせて編集し、学活の性教育で活用 ・学級活動での性教育、わかりやすく反応もよい ・学級活動（1年生、生命誕生）の事業で活用 ・3年生はクラスごとに学活で思春期教室を実施、2年生は家庭科「幼児の生活と家庭」の単元で実施 ・思春期教室での学年集会で活用

5) 生命科学体験プログラム「ストレスに適応する生体の機能」

平成 25 年度 サイエンスパートナーシップ・プロジェクト

えひめ高校生サイエンスチャレンジ 生物コース

生命科学体験プログラム「ストレスに適応する生体の機能」

(1) 概要

ア 目的

高等学校理科の新学習指導要領においては、思考力、判断力、表現力等をはぐくむために、観察、実験、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実させることとされている。愛媛県総合教育センターから、通常の授業あるいは単独の学校ではできないような、探究的な活動を行わせるための講座を、「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」として実施するに際し、生物領域の実験、観察とその指導のため、昨年に引き続き本学地域交流センターを通して協力依頼があった。今年度のテーマを、生命科学体験プログラム「ストレスに適応する生体の機能」とし、正常の生体の反応に加えストレス曝露時の生体の反応を探求していく実験を考案し、講義・実験を行った。

イ 対象者

県内国公立高等学校生徒

(2) 主催 愛媛県総合教育センター、地域交流センター協力

ア 講師 岡村法宜 助教、昆和典 教授、野島一雄 准教授

イ TA 山田健人、村下みのり（臨床検査学科 2 年）

(3) 事業内容

ア 日時

平成 24 年 8 月 3 日（土）、4 日（日） 10:00～16:30

イ 場所

愛媛県立医療技術大学医用工学実習室、臨床生理学実習室

愛媛県立医療技術大学 356 講義室

ウ 参加者数

県内国公立高等学校生徒 29 名

エ 実施内容

(ア) 開会式

① 開会の挨拶 門田成治（臨床検査学科長）

② 講師・TA 紹介

③ スケジュールの説明・注意 丸尾秀樹（総合教育センター教科教育室室長）

(イ) 講義

① 動物実験に関する教育訓練 野島一雄

② 各実習のねらい 岡村法宜

(ウ) 実習

① ラット頸部、胸腹部の解剖

② 吸入気酸素濃度と炭酸ガス濃度が心拍と呼吸に及ぼす影響

③ ラット坐骨神経を用いた実験—体温低下による神経伝導速度の変化—

④ 運動負荷、ストレスによる血糖値の変化

⑤ 運動負荷による代謝量と皮膚温の変化

⑥ 立ちくらみの生理—体位と血圧の関係—

(エ) 結果のまとめ

(オ) 閉会式（実験動物慰霊碑前）

① 実験動物追悼式

② 閉会の言葉



開会式



はじめての解剖



生きた動物による実験



代謝測定



動物慰霊碑前で

オ 参加者の反応（自由記載）

- ・貴重な経験ができた。
- ・はじめての解剖で、緊張した。
- ・教科書や参考書の定説どおりに実験結果がならないことに驚いた。
- ・教員の勉強にもなった（引率教員）。

（４）評価と課題

今年度のえひめ高校生サイエンスチャレンジ（生物コース）は、「ストレスに適応する生体の機能」というテーマで、種々の実習を実施した。特に、生体が複雑なシステムであることを受講者に体感してもらうために、実験結果が定説通りにならない実験を加えた。参加者は、はじめての動物実験や実験機器の使用に苦戦しながら、終始真剣な眼差しで実験に取り組んでいた。

今年度は、当初の定員 16 名に対し、79 名の申し込みがあり、できる限り多くの高校生の参加を実現させるため、実習項目を増やし 29 名の参加申し込みを受け付けた。その結果、スケジュールがタイトになり、得られた実験結果に対するディスカッションを行う時間を十分確保できなかった。次年度は、多くの学生の参加とディスカッション時間の確保を両立させることを念頭に置いて、実習項目と実習内容の精査を行う必要がある。

6) 高校生出張講座ーメディカルトークー

事業名 ブック&メディカルトーク・高校出張講座（性教育）

第一回：愛媛県立南宇和高等学校

第二回：愛媛県立宇和島南中等教育学校

第三回：今治北高等学校大三島分校

(1) 概要

愛媛県立図書館との共催により、愛媛県内の高校生を対象に県立図書館職員よりいのちに関する図書の紹介と本学教員のメディカルトークをとおして、高校生に生と死、命、医療などを考える機会とする。

(2) 実施主体・連携協力機関

本学地域交流センターと愛媛県立図書館の共催

(3) プロジェクトメンバー

脇坂教授、草薙教授、上野准教授、中越講師

(4) 事業内容

第一回：愛媛県立南宇和高等学校 講師：草薙康城教授

ア 日時 平成 25 年 7 月 1 日（月）11 時～11 時 50 分

イ 場所 愛媛県立南宇和高等学校 体育館

ウ 参加者数 3 年生 569 名

第二回：愛媛県立宇和島南中等教育学校 講師：脇坂浩之教授

ア 日時 平成 25 年 7 月 18 日（金）15 時 40 分～16 時 40 分

イ 場所 愛媛県立宇和島南中等教育学校 武道場

ウ 参加者数 1 年生 160 名と教職員 6 名 計 166 名

第三回：愛媛県立今治北高等学校大三島分校 講師：上野恭子准教授

ア 日時 平成 25 年 10 月 16 日（水）11：30～12：30

イ 場所 愛媛県立今治北高等学校大三島分校体育館

ウ 参加者数 生徒 59 名、教員 10 名、見学者 1 名 計 70 名

エ 実施内容

【第 1 回 高校出張講座・南宇和高校】（草薙康城教授）

○ 生徒の感想から

1 学期の保健の授業で、人工妊娠中絶などを習ったところなので、今回の講演 会の内容がずっと頭に入りました。薬を 1 回飲むだけで治すことができる性感染症もあるのだと初めて知りました。自覚症状がほとんどないこともあるので、自ら病院へ行って検査する、すなわち早期発見が大切なのだと考えました。高校を卒業したら自ら知ろうとしないと、こういった事はもう学べないし、誰からも教えてもらえないだろうと先生が言われるまで、そんな風に考えたことがなかったです。これからは高校で学ぶ全てのことが社会で生きてくるという心をもって勉強をしていきたいです。誰かに教えてもらえるのも高校までだという気持ちで生活していきたい。(2

年男子)

講話を聞いて、人が生まれてくるのは当たり前ではないのだと改めて思いました。「私たちは選ばれて生まれてきた」という言葉に、最初は疑問を抱きましたが、講話を聞いた後の今は違います。選ばれて、選ばれて生まれてくるのだと実感しました。これから自分がそういう経験をするかは分かりませんが、可能性はあると思います。簡単に考えずに、きちんと考えていくべきだと思いました。(3年女子)



本学教員が作成した性教育教材
CDを使用しながら講演される
草薙教授

【第2回ブック&メディカルトーク・宇和島南中等教育学校】(脇坂浩之教授)

○ ブックトーク (愛媛県立図書館 子ども読書係長 田中ひとみ)

「生と死をみつめて」というテーマで、5冊(フィクション2、ノンフィクション3)の本を紹介した。フィクションの2冊は、家族愛と臓器移植をそれぞれテーマにしたものである。命の大切さを伝えたいと思い選択した。また、後の3冊は、「命のバトンをつなぐ」というテーマのもので、一生懸命生きることの大切さを訴えたいと思った。どの生徒もメモを取りながら一生懸命聞いていたのが印象的だった。終了後、紹介した本を前に何人もの生徒たちが「この本読んでみたい」と話している姿が見られた。

○ メディカルトーク (愛媛県立医療技術大学 脇坂 浩之 教授)

日本人の死亡原因の一位であるがんについて、がん専門の外科医の立場から話していただいた。がんとは何か、喫煙の影響ががんの発生にどの程度影響するかなど、興味深いお話であった。医療系に進学希望の3年生であるので、医療技術者にはどのような種類があるか、医師の一日のタイムスケジュールなどを具体的に話していただいた。また、手術の様子のスライドを見せながら、外科医、麻酔科医、看護師などチームで手術を行っていること、医療現場は大勢のスタッフとの連携・協力があってこそ成り立つものであることを話された。今後、進路を考える上で、たいへん参考になったものと思う。



【第3回ブック&メディカルトーク・今治北高校大三島分校】（上野恭子准教授）

○ ブックトーク（愛媛県立図書館 水野氏）

「命」をテーマにブックトークを実施。タイトルを「生きるよろこび」とし、病気と闘う人たちのエッセイ、詩、短歌、写真絵本などを5冊選んだ。生徒たちは熱心に耳を傾けてくれた。終了後に、図書委員の男子生徒が本を読みたいとお礼を言ってくれた。

○ メディカルトーク（愛媛県立医療技術大学 上野恭子 准教授）

上野先生の話は、生命の誕生から性教育まで助産の現場での話を織り交ぜ、スライドショーを音楽とともに見せるなど、生徒が飽きないような工夫がされていて、とてもおもしろかった。



（5）評価と課題

医療の専門家との連携によるブックトークは、愛媛県立図書館の事業としても有意義なものだと評価されている。県立図書館のブックトークと本学教員にみるメディカルトークは、将来の進路を決める高校生にとって有意義で教育効果が高いものとなっている。次年度も県立図書館との共催で開催される予定である。

7) おもしろ理科教室

(1) 概要

地域貢献の一環として、医技大祭に本学を訪れた子どもを対象に、実験を通して理科のおもしろさを発見し、自然科学への興味を喚起する理科実験を実施する。

学生ボランティアを募集し協力を依頼する。

(2) 実施主体

主催：本学地域交流センター

学生ボランティア 6 名程度

医技大祭実行委員会

とべ子育て支援団体ぽっかぽか

(3) 事業内容

ア 日時 平成 24 年 10 月 26 日（土）13 時～15 時
10 月 27 日（日）13 時～15 時

イ 場所 359 実験室（北棟 3 階）

ウ 対象 子どもとその保護者等

エ 実施内容

① 第 1 回 「シャボン玉液をつくろう」

ア 日時 10 月 26 日（土）13:00～15:00

イ 場所 本学 北棟 359 実験室

ウ 参加者数 子ども 40 名、保護者 20 名

エ 実施者と実施内容

- ・担当講師は加藤徳雄講師、学生ボランティア 3 名（臨床検査学科 1 年）
- ・実験内容

シャボン玉液原料の 3～5 種の液をはかり取り、混合して子どもが自分でシャボン玉液をつくる。ジャンボシャボン玉液と割れにくいシャボン玉液の 2 種類を用意した。さらに、大きなシャボン玉液を作るために、ストローの加工やアルミ線で輪っかづくりを行った。実験により作成した作品はお土産として持ち帰ってもらった。



原料液のはかりとり



輪っかでジャンボに

②第2回 「笛をつくろう」

ア 日時 10月27日（日）13:00～15:00

イ 場所 本学 北棟 359 実験室

ウ 参加者数 子ども 20 名、保護者 10 名

エ 実施者と実施内容

- ・担当講師は佐川輝高助教、学生ボランティア 3 名（臨床検査学科 1 年）
- ・実験内容

実験により作成した作品はお土産として持ち帰ってもらった。



笛をつくろう

8) 夏休みキッズひろば

事業名 夏休みキッズひろば

第一部：ナース体験「手洗いピカピカと包帯まきまき」

第二部：おもしろ理科実験「スライムを作ろう」

(1) 概要

NPO 法人とベ子育て支援団体ぽっかぽかとの共催により、砥部町内の幼児・児童とその保護者を対象に、親子の医療・看護に関する体験活動及び理科教室を開催し、関心をもっていただく機会とする。

(2) 実施主体・連携協力機関

本学地域交流センターと「NPO 法人とベ子育て支援団体ぽっかぽか」の共催

(3) プロジェクトメンバー

加藤講師、相原助教、和田教員

本学学生ボランティア 5 名

(4) 事業内容

ア 日時 平成 25 年 8 月 8 日（木）10 時～12 時

イ 場所 別館 2 階地域交流センター多目的室(7210)および理科実験室

ウ 参加者数 幼児・児童 21 名と保護者 12 名 計 33 名

エ 実施内容

【第一部】10 時～11 時

衛生学的手洗いと包帯法について、いずれも教員による紙芝居とデモンストレーションを実施後、参加者に体験してもらった。手洗いをしたのち、「手洗いチェッカー」によって洗い残しがないか、また、どの部分に洗い残しが多いのかなどを体験してもらった。親子連れが多く母子一緒の体験となった。

【第二部】11 時～12 時

おもしろ理科実験「スライムを作ろう」の内容は資料として添付した。

オ 参加者の反応

「楽しかった」「また来たい」「お土産がよかった」などの意見をいただいた。



ピカピカ手洗い



包帯まきまき



スライムを作ろう 1



スライムを作ろう 2

(5) 評価と課題

NPO 法人とベ子育て支援団体ぽっかぽかの呼びかけにより、今年度も多くの参加者 33 名に集まっていた。また、学生ボランティア 5 名の協力が得られ、計画通り実施できた。第一部では時間内に 2 テーマ実施したが、関連性が分かりやすく、流れもちょうどよかった。第二部では、作成したスライムはお土産として持ち帰っていただいた。今年度のおやつは軽めに企画した。準備の段階で、特に配慮したのは冷房運転の確認と案内表示であった。

(6) 資料

夏休みキッズひろば 理科実験

2013.8.8

スライム・磁性スライムの作り方

愛媛県立医療技術大学 おもしろ理科教室

1. ホウ砂水を作る

コップに ホウ砂 2g を上皿天秤ではかりとる。水をコップに3分の1くらい加え、良くかき混ぜる。

2. 水に色をつける

水をコップに3分の1くらい取る。これに食紅(食黄、食緑、食青など)を予め溶かした液をスポイトで 2mlくらい加え割りばしでかき混ぜる。食紅を用いると出来上がりのスライムが澄明な紅色になる。

3. 洗濯のりを加えまぜる。さらに3分の1

4. 半分に分ける

別のコップに半分にわけ、一方のコップに四酸化三鉄の粉末を薬さじ 1 杯分加えてかき混ぜる。

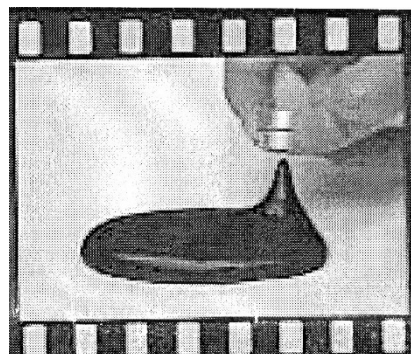
5. ホウ砂水を少しずつ入れかき混ぜる

スポイトでホウ砂水を少量ずつ加える。しだいにかき混ぜる手が重く感じる。急に固まりはじめ、割り箸に“からみつく”状態になるので、とにかくかき混ぜつつける。全体が固まったら、しばらく静置して一塊になったら割り箸でゆっくり回しながら手のひらに取り出し(紙や布の上に取り出さない)、よくねりあわせる。

6. スライムを取り出して、手でなじませる

この時、手を先にホウ砂水に浸しておくとうつつかない。また、こねる時には、泡が入らないように気をつける。泡が入ってしまうといつまでもベタベタして固まらない。

7. 磁性スライムにネオジウム磁石を近づけてみる



透明ポリ袋に入れておみやげにしよう。食べられません。

9) とべ子育てフェスタ

とべ子育てフェスタ 2013 看護師・臨床検査技師“お仕事体験”

(1) 概要

砥部町の子育て支援に関わる関係者と子ども・親など町民一人ひとり、および団体・企業が協力し、地域社会全体で、子育て・子育てを応援することを目的とする。

“とベキッズお仕事体験”では、親子が興味のある職業体験を通して、コミュニケーションを図り、将来への夢を育むきっかけづくりとする。

(2) 実施主体

主催：NPO 法人とべ子育て支援団体ぽっかぽか

共催：砥部町・砥部町教育委員会・砥部町議会

実行委員会：高尾田あったかコミュニティカフェにて 13 時から 1 時間程度

①5 月 14 日（火）：関係者紹介、趣旨説明、実施計画、広報について

②6 月 19 日（水）：応募状況、当日スケジュール、役割分担

(3) 事業内容

ア 日時：平成 25 年 6 月 30 日（日）13:00～17:00

イ 場所：砥部町保健センター

ウ 参加者数：臨床検査技師ブース（子ども 36 人、大人 32 人）

看護師ブース（子ども 24 人、大人 15 人）

*いずれも年齢層は、3 歳～12 歳

エ 実施者

臨床検査技師ブース（洋室）

講師：則松良明教授、坂東史郎講師、臨床検査学科 3 年生 4 名

（池本七生、坂本早樹、富岡美沙、豊田紋子）

看護師ブース（和室）

講師：藤原紀世子助教、看護学科 2 年生 4 名

（石田 唯、亀内美希、友近瞳、松岡夏未）

記録・連絡係：野村美千江地域交流センター員

オ 実施内容

1 回の体験時間は 30 分とし、休憩をはさみ 3 回実施した。子ども 8～12 人が保護者とともに希望するブースを訪問し、そこで仕事を体験する流れであった。

臨床検査技師ブースでは、子どもたちが簡易白衣を着用して、講師による仕事紹介と血液型や顕微鏡の簡単な説明を聞いた後、赤血球・白血球・がん細胞・マラリア原虫などを 1000 倍の顕微鏡で観察したり、血液型判定カードに試薬と血液を混ぜるお手伝いをしながら、凝集していく様子を観察した。

看護師ブースでは、子どもたちがユニフォーム着用後、手洗いをして『手洗いチェッカー』を用いて、洗い残しがないかをチェック。その後、再度手洗いをしてどの部

分に洗い残しが多いかを学習し、あわせて包帯の巻き方を体験した。

カ 参加者の反応

子どもたちはユニフォームを着用でき、一様にうれしそうな表情だった。また、講師のやや難しい話にも真剣に耳を傾け、それぞれはじめて体験する内容に目を輝かせていた。年齢に関係なく、大学生に質問する姿が見られ、ボランティアとして参加した学生からは、「小さい子と関わる機会が少ないので、少し戸惑うこともあったが、何かを上手くできた時の子ども達の表情や喜ぶ姿をみることで良かった」「一人一人には個性があり、関わり方の難しさを感じたけれど、これからもいろいろな体験を通して上手な接し方を学びたい」などの感想が得られた。

(4) 評価と課題（次年度へ向けての計画を含む）

実施面では、保健センターの各ブースには十分なスペースがあり、手洗い場についても、ブースからの距離や子ども達にとって使いやすい高さで、時間的にもスムーズに進行できた。会場の案内表示や保護者への注意事項の説明などは主催者側から行われ、混乱はなかった。昨年は、3 つ目の体験で子どもたちに疲労が出てきていたとの指摘があったが、今年は1回 25 分と短く、休憩時間 15 分設けたため、最後まで元気がみられた。

準備面では、ユニフォームが子どもにとって重要である。臨床検査の白衣は紙製子ども用を購入・備蓄し、ナース衣は看護学科 4 年生から寄付を募る。また、次年度は、実行委員会に参加せず、仕事体験ブースのみに出展することとしたい。

大学の PR 面において、持参したオープンキャンパス・ポスターを熱心に読む保護者や本学を受験したいと語る親子の姿もあり、学生祭の案内掲示や本学の PR 用ポスター（イベント案内ではなく常時使用可能なもの）の必要性を痛感した。

<各ブースの反省・評価>

○臨床検査技師ブース

部屋は十分に広く、顕微鏡を置く机や血液型判定を見てもらう机も余裕を持って配置することができた。そのため、顕微鏡も 6 台設置することができ、横には顕微鏡で観察できる細胞や原虫の写真を置き、その写真を見ながら観察することができた。また、十分な間隔があったため、子供たちがぶつかることもなく、同時に保護者の方も一緒に観察することができた。ただ、低学年の子供達は机の上に設置した顕微鏡には届かないため、椅子の上に立って見てもらった。少し足場が不安定であったが、保護者の方に補助して頂いたため、特に問題は起きなかった。世話人が少ないこともあり、今後も同様に、低学年の子供には保護者の補助をお願いできれば良いと思われる。顕微鏡写真を含む資料はラミネートで保護されたものを準備したため、毎回作り直す必要がなく、同じものが利用できる。

顕微鏡観察では、子供達に関心を持って見てもらったが、それ以上に保護者の方が興味を持たれたようで、特に白血病に対する質問が多く寄せられた。

学生 4 名が対応してくれまた血液型の机では、学生 1 名に対し 3～4 名の子供達が集まり、興味深く観察していました。特に、試薬と血液を混ぜた後、血液型判定カードを自分たちで

揺すりながら血液が凝集していく様子に感動していました。10名程度ずつの班分けと4名の学生の対応によって、全員が血液型判定を体験することが可能であったことより、今後も同程度の人数で実施することが望ましいと考えられる。

臨床検査技師の仕事の内容や当日体験できることへの説明については、小学生高学年ではある程度理解しているようであったが、低学年では理解できない子も多く、もう少しかみ砕いた内容にする必要があると思われる。ただ、保護者の方が子供達に易しく説明していたので、ある程度は理解できていたと思われる。

○看護師ブース

準備段階として畳の部屋を借りることができたので、子どもたちも長時間座って過ごすことができ、家族もゆったり座って見守ることができていた。机も低めなので、手洗いチェッカーの中の手を上から十分ゆとりを持ってみることもできていた。手洗いチェッカーはやはり部屋を暗くした方が見やすいので、その点でも和室は看護のみのブースであったことから自由に電気を消すことができ、非常に効果的であった。何より畳に座ることで学生も同じ目線となり、最初はお互い緊張気味であったが、イベントの最中は打ち解けて会話ができていた。

大学生とはあらかじめ大学で打ち合わせをし、それぞれ子ども2人を担当してもらい、お互いの自己紹介に始まり、お迎え、白衣の着脱手伝い、手洗い場への誘導、手洗い指導、手洗いチェック、包帯巻き、お見送りを依頼した。大学生は非常に丁寧に子どもたちの体験を支援し、子どもたちも大学生に信頼を寄せており、大学での話など熱心に耳を傾けていた。大学生自身も「癒された。参加してよかった」と、笑顔で感想を述べていた。以上の点からも、今後も大学生の参加は必要である。

今回はサラヤに協力をいただき、手洗いシートをお土産に配布した。子どもたちは手洗い実施中も熱心に見ており、喜んで持って帰っていた。手洗いはただ洗うだけでなく手洗いチェッカーを使うことで洗い残しの証拠が目に見え、それが子どもたちにとっても楽しい体験となっていたようである。意外であったのは、ノロウイルスと緑膿菌のぬいぐるみにどの子どもも非常に関心が高かったので、今後もこのような視覚に訴えることが効果的であると考えられる。子どもたちは包帯を巻いてもらうことも喜び、家族に見せたり、写真を撮ったりして楽しんでいた。

参考：本学以外の“お仕事体験”ブース

大工、消防士、銀行員、理美容師、飼育員、介護士、歯科衛生士

製菓衛生師、教師、保育士、陶芸家、リハビリ、コンビニ、自転車屋

4 資料（教材内容、パンフレット、関係資料等）

臨床検査技師ブース



<臨床検査技師のお仕事とクイズ>



<講師のお話を真剣に聞く子どもたち>



<血液型判定カードを手にとって見る>



<血液凝集による血液型判定>



<顕微鏡で赤血球・白血球をみる>



<顕微鏡でマラリア原虫をみる>

看護師ブース



<看護師のお仕事とクイズ>



<正しい手洗いの方法を説明>



<みんなで手洗い>



<チェッカーで洗い残しをチェック>



<包帯まきまき>



<最後に記念写真>

2013 とべ子育てフェスタ 臨床検査技師ブース

キャッチコピー

血（ち）は何でできているのかな？ 顕微鏡（けんびきょう）で大きくして見てみよう！

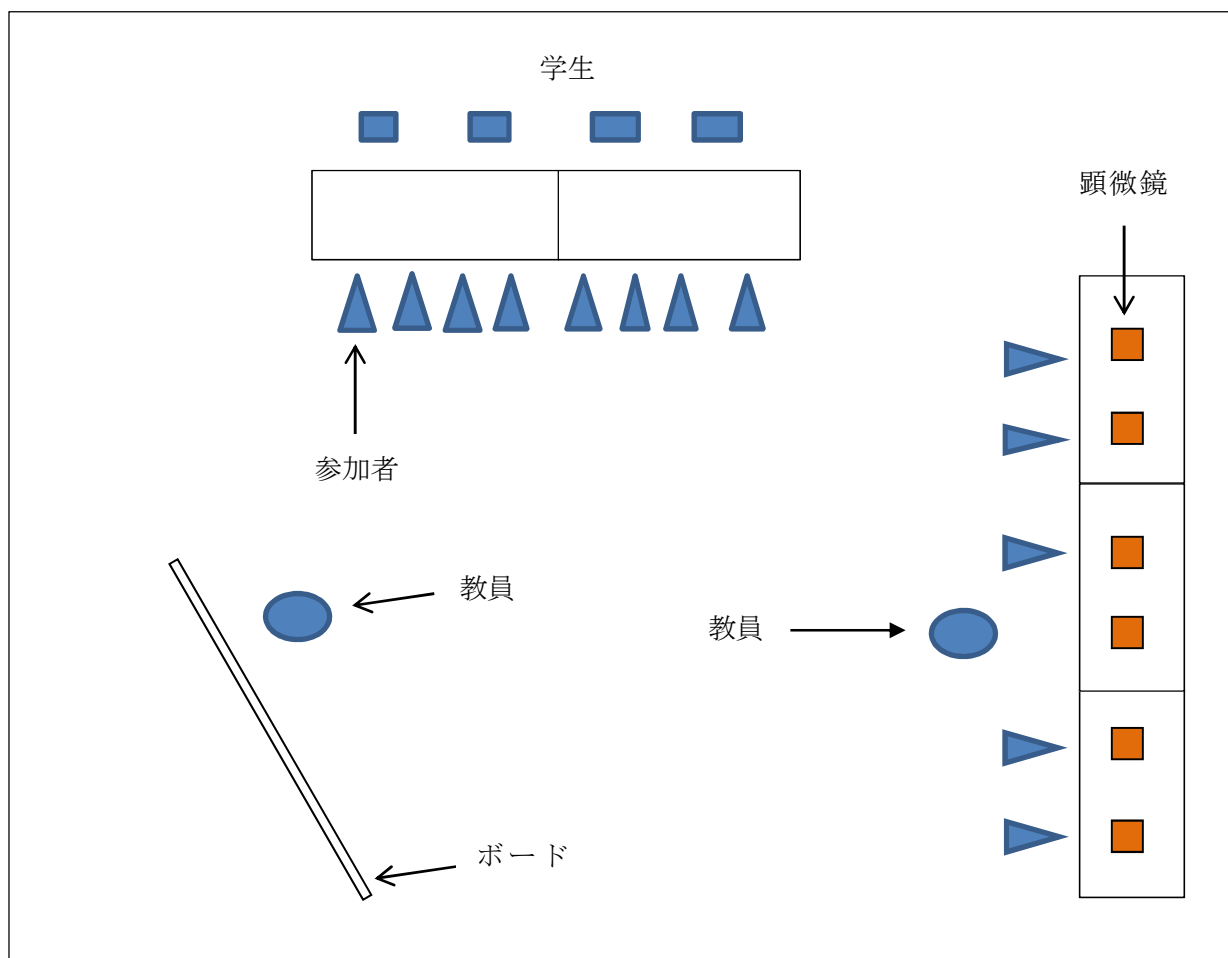
- 1) 顕微鏡：6 台
- 2) 標 本：健常人、急性白血病、三日熱・熱帯熱マラリア
- 3) 資 料：顕微鏡の観察用写真 6 枚

キャッチコピー

血液型（けつえきがた）はどうやって調べるの？

- 1) 試 薬：抗 A 抗体、抗 B 抗体
- 2) 血 液：A 型血液、B 型血液
- 3) 判定用：血液型判定カード
- 4) 混合用：爪楊枝
- 5) 資 料：試薬置き、測定手順、判定結果、臨床検査技師の仕事

配置図



臨床検査学科：臨床検査技師の仕事、顕微鏡をのぞいて見えたもの、血液型の判定結果

臨床検査技師のおもな仕事

血液型を調べる

血を取って病気の原因を調べる

食中毒の細菌を調べる

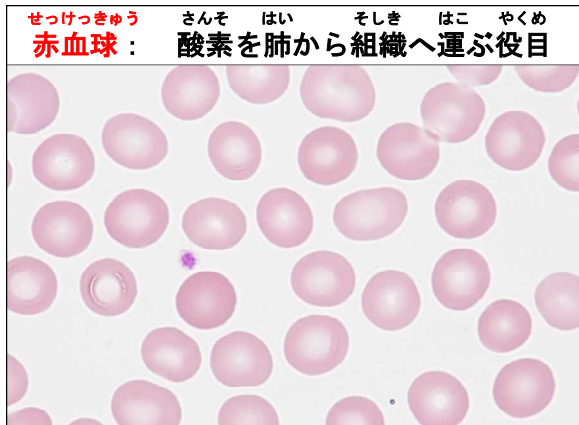
おしっこを調べる

心電図や超音波で心臓を調べる

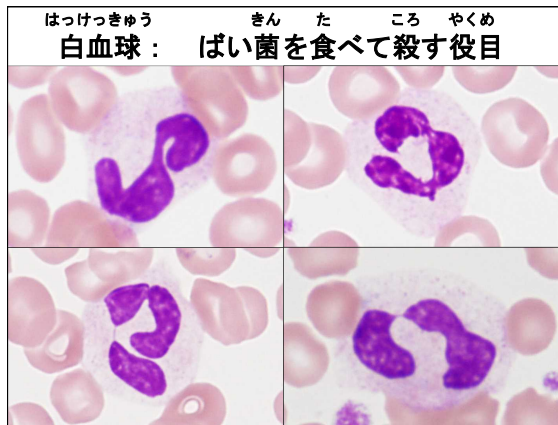
脳波を取って頭の中を調べる

癌細胞を見つけ出す

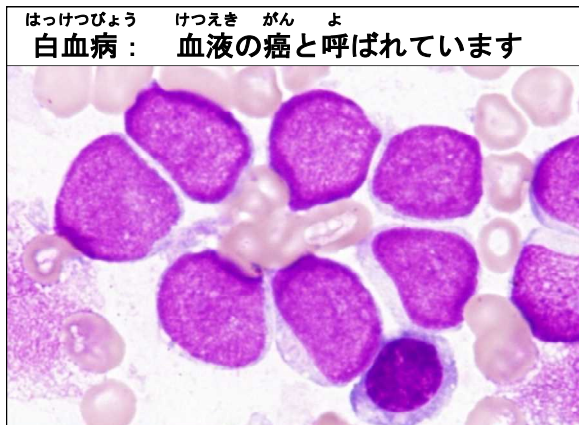
赤血球： 酸素を肺から組織へ運ぶ役目



白血球： ばい菌を食べて殺す役目



白血病： 血液の癌と呼ばれています



マラリアという病気

マラリア原虫 蚊に血を吸われる 人の体に入る

熱がでる
おなかがはれる
貧血になる

ハマダラ蚊(日本にはいません)
熱帯地方(東南アジア・アフリカ)にいます

外国でうつって、日本に帰ってきて病気になる



血液中の赤血球の中にある赤い矢印の丸い虫がマラリア原虫です。



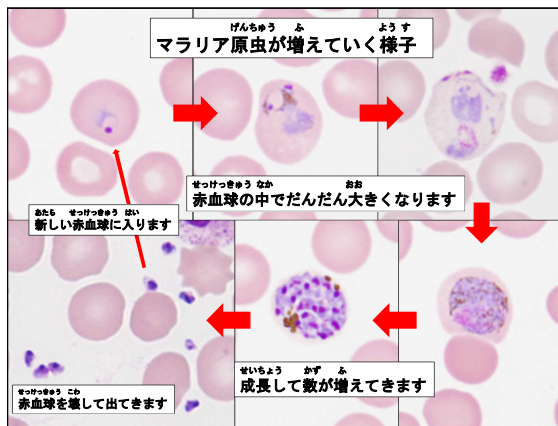
マラリア原虫が増えていく様子

赤血球の中でだんだん大きくなります

新しい赤血球に入ります

成長して数が増えてきます

赤血球を壊して出てきます

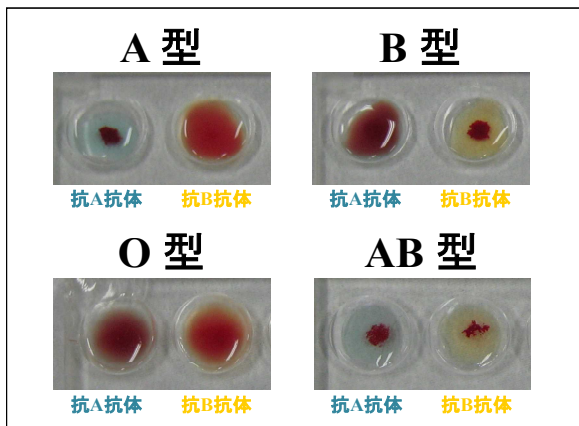


A 型 B 型

抗A抗体 抗B抗体

O 型 AB 型

抗A抗体 抗B抗体



2013 とべ子育てフェスタ 看護師ブース

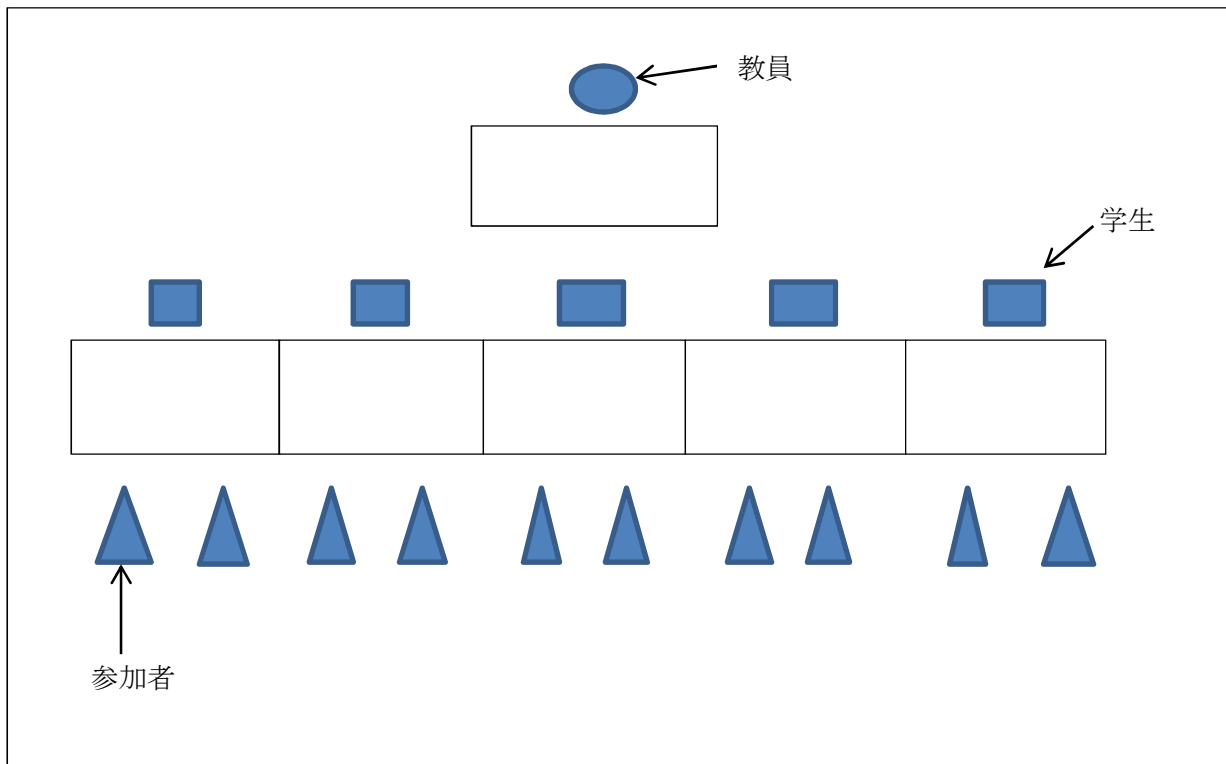
1. 必要物品

手洗いチェッカー5台、ローション5台、シャボネット5台、ペーパータオル、ゴミ袋
手洗いシート40枚、包帯、紙テープ、はさみ5つ、上白衣10着、ポスター

2. 準備

- 1) 机を6台並べる。
- 2) 机1つにつき、手洗いチェッカー、ローションを中央に1つずつ配置する。
- 3) 机1つにつき、手洗いシートを2枚ずつ配置する。手洗いシートは持ち帰りなので、2時間目前、3時間目前にも2枚ずつ準備する。
- 4) 机1つにつき、包帯、紙テープ、はさみを一つずつ配置する。足りなくなったときは、教員用の机に取りに行く。
- 5) 廊下の洗面台に行き、シャボネット、ペーパータオルを手洗い場2つにつき1つずつ配置する。ゴミ袋を近くに固定する。
- 6) 壁にポスターを貼る。
- 7) クーラーの温度を確認する。
- 8) 白衣に着替える。

配置図





サラヤ提供「さあ、みんなで手をあらおう！」

10) リレー・フォー・ライフ in えひめ

『リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2013 えひめ』

(1) 趣旨および概要

がん患者やその家族、支援者を讃え支えるチャリティーイベントに、学生を主体とした全学的な組織で参加し、市民や関係者とその時間を共有する。

本イベントの目的は、がん患者・家族・支援者を讃え支えること、亡くなった人たちへの追悼、がんの啓発、募金活動。募金のうち、必要経費を除いたものは日本対がん協会に寄付し、検診事業や若手医師の奨学金、電話相談などに充てられる。

リレー・フォー・ライフ（命のリレー）とは、がん患者や家族、その支援者たちがチームを組み、交代で 24 時間歩き続けることにより、がん征圧への願いと絆を深め合う催し。1985 年にアメリカ対がん協会が始まり、世界的な運動となった。日本では 2006 年開始。愛媛県では 2010 年に第 1 回開催、今年は第 4 回。本学はその趣旨に賛同し、センター事業として参加している。

主催：（公財）日本対がん協会リレー・フォー・ライフ・ジャパンえひめ実行委員会
世話人代表：久野梧郎愛媛県医師会長、実行委員長：松本陽子おれんじの会代表

(2) 本学の体制

本部実行委員：松井美由紀講師

加藤寛司（看護 4 年）、石丸郁実（看護 3 年）

上野真紀子（看護 2 年）、浅井美里（臨床 2 年、STS 部長）

学内実行委員：リレー・リーダー：前田美奈（臨床 4 年）、日吉郁弥（臨床 3 年）

ボランティアリーダー：金山裕美（看護 4 年）、豊田紋子（臨床 3 年）

教職員リーダー：野島一雄准教授、島田美鈴准教授

地域交流センター

(3) 実施内容

ア 日時 平成 25 年 10 月 12 日（土）正午開会式～13 日（日）正午閉会式

イ 場所 松山市城山公園 堀之内地区ふれあい交流広場

ウ 本学の参加者 当日参加は 計 134 人

本部付役員 教員 1 人、学生 4 人

ボランティア 看護学科 30 人（4 年 14、2 年 9、1 年 7 人）

臨床検査学科 11 人（4 年 7、3 年 1、2 年 1、1 年 2 人）

リレー・ウォーク看護学科 14 人（4 年 4、3 年 1、2 年 9 人）

臨床検査学科 40 人（4 年 6、3 年 13、2 年 9、1 年 12 人）

教員 17 人、事務局職員・図書館司書 17 人

エ 当日参加以外の内容

○学内結団式 平成 25 年 10 月 4 日（金）18 時～ 打合せ・フラッグサイン

○レミナリエバッグ 25 枚（1 枚 200 円）希望者購入・描画

○日本対がん協会への募金（8 月） 学生と教職員 64,983 円

○リレーチームへ激励寄付（9 月） 教職員 33,819 円＋差し入れ多数

○本部実行委員会参加（5～10 月毎月 1 回平日夜）、当日クイズラリー実施

(4) 反省および次年度への意見

本部実行委員を務める学生総リーダーの下、全学的学生の組織化、募金集め等の活動、地域交流センターとの連絡調整が遂行された。リレー・ウォーク、ボランティアチームとともに当日運営は学生主体で実施された。運営・夜間参加等の判断を学生リーダーに一任することにより、学生は大きな達成感が得られるので、センターは学生リーダーの後方支援（学内周知、物品貸与、結団式参加等）の役割に徹し、次年度も学生主導で実施したい。

学生からの提案により、次年度はチャリティー募金をプログラム協賛広告にする予定。また、RFL 実行委員会の活動を学内や保護者に広く知らせるため、その方法を検討する。

(5) 活動の実際



【学内結団式の様子】

実行委員長以下、学生リーダーの自己紹介
リレー・ウォークやボランティアに参加する約
90名の学生が参加しました。
リレー・チームとボランティア・チームの
打合せも行われました。

【開会式】

ボランティアが紹介されました
本学の学生も多数参加



【リレー・ウォーク・チームの紹介】

副リーダーが立派にあいさつしました。
リーダーとメンバー数名がフラッグ掲げて
壇上でサポート



【ボランティア活動の様子】

受付・会計・フラッグ作成・クイズ係など
 たくさんの仕事に従事しました。
 右写真は、ルミナリエバッグ点灯準備で
 バッグひとつひとつに砂をつめている場面です



【リレー・ウォーク・チームの場面】

ビブスを着用し、チームフラッグを持って
 24時間タスキをつないで歩きます。

【24時間リレー・フォー・ライフスタート！】



【ファイナル・ウォーク】



【24時間、たすきをつないで達成】



【閉会式後、松山城をバックに記念撮影】



ありがとうございました！

1 1) 科学で身に着ける災害に立ち向かえる力と心

JST 採択事業「科学で身につける災害に立ち向かえる力と心」

(平成 25 年度「機関活動支援」運営業務 愛媛県立医療技術大学「250245・科学で身につける災害に立ち向かえる力と心」)

(1) 概要

基礎科学的実験を中心に、科学・医療・災害ボランティア・芸術の専門家参加を得て、生物としての人間理解、自然の力を活用した生活の理解、芸術と科学を利用した表現などを主軸に、小中学生と保護者を対象とした科学教室を7回開催した。

(2) 実施主体・連携協力機関

実施主体：公立大学法人愛媛県立医療技術大学

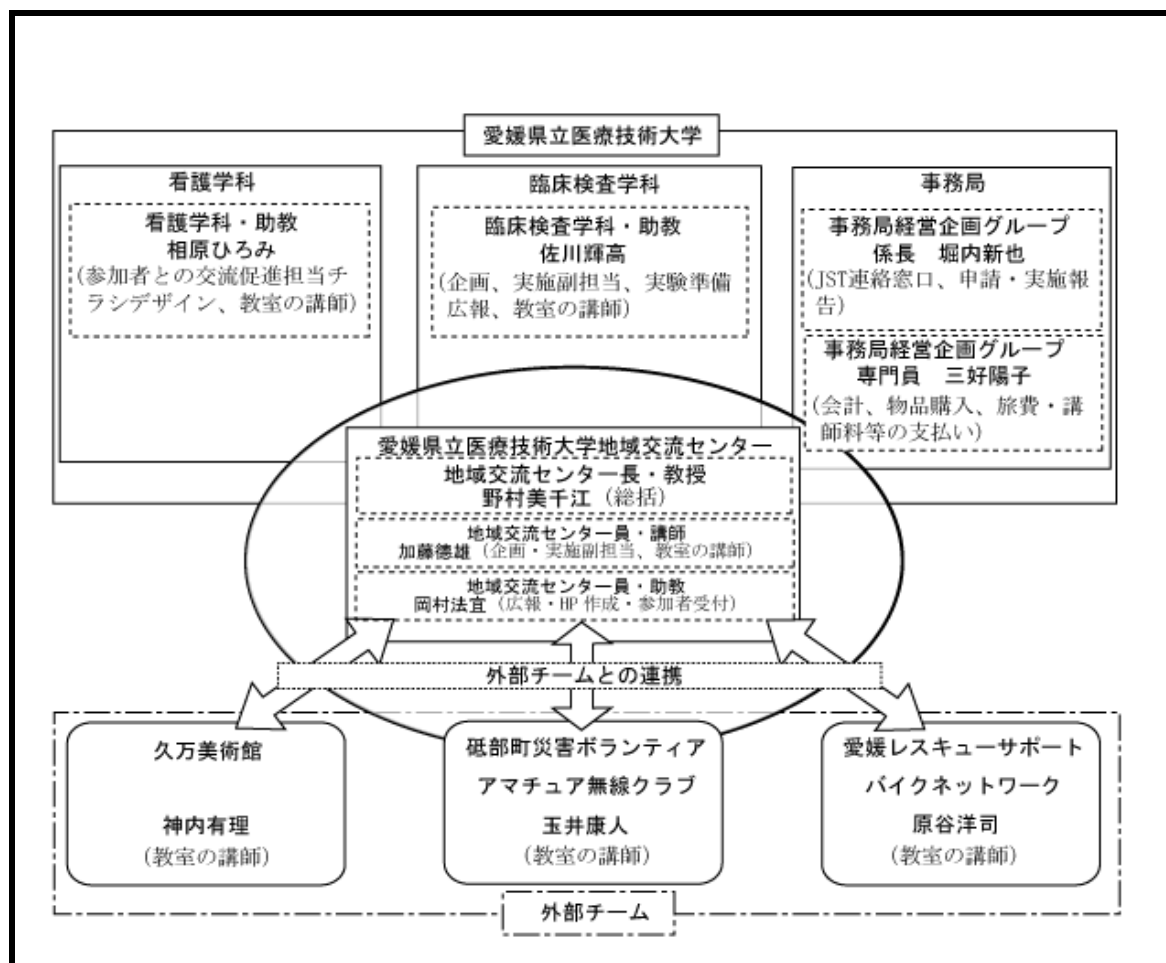
支援機関：独立行政法人科学技術振興機構 科学コミュニケーションセンター

(3) 実施体制

① スタッフリスト

担当者名	所属機関名	役職	氏名	担当業務内容
実施主担当者	愛媛県立医療技術大学	地域交流センター長	野村 美千江	総括、スタッフ調整、広報 当日受付と運営補助①～⑦
実施副担当者	"	臨床検査学科 助教	佐川 輝高	活動全体の遂行責任①～⑦、 講師①③④⑤⑥⑦
実施副担当者	"	地域交流 センター員	加藤 徳雄	活動の遂行補助と記録①～ ⑦、講師②③
実施補助者	"	"	岡村 法宜	HP担当、 参加者メール申し込み受付
契約担当者		事務局経営企画 グループ係長	堀内 新也	JST 担当者との連絡、 総括者補助
経理担当者	"	事務局経営企画 グループ専門員	三好 陽子	経理、庶務
活動協力者	"	看護学科 助教	相原ひろみ	講師①
活動協力者	愛媛レスキューサポート・ バイクネットワーク	副代表	原谷 洋司	講師②
活動協力者	砥部町災害ボランティア・ アマチュア無線クラブ	書記	玉井 康人	講師④
活動協力者	久万美術館	学芸員	神内 有理	講師⑦

② 実施体制図



(4) 実施内容（全7回）

① 活動名 **怪我と身体**

ア 日時 2013年7月13日（土）10:00～12:00

イ 場所 愛媛県立医療技術大学 北棟 539実験室

ウ 参加者数 38人

エ 講師 本学助教 佐川 輝高、助教 相原ひろみ

オ 概要：夏休みのはじまりに近いということもあり、怪我とその治療を中心とした内容の展開を行った。身体の構造に関しては、手羽先を用いて基礎的な観察を行った後に学習を行った。その後に医療従事者資格を持った講師が、怪我やその治療に関して、クイズを交えながら、最新の講義やディスカッションを行った。



親子で、手羽先の骨を観察し、動けるように組み立てている。



傷の治癒の過程や怪我の手当などについてクイズ形式で学んでいる。

② 活動名 水と災害

ア 日時 2013年7月 21日（日）10:00～12:00

イ 場所 愛媛県立医療技術大学 北棟 539実験室

ウ 参加者数 24人

エ 講師 本学 講師 加藤 徳雄

愛媛レスキューサポート・バイクネットワーク隊員 神野哲行

オ 概要：自然災害の中でも愛媛県内で最も多い水害を取り上げ、水と人間の生活を科学の目をとおして理解してもらった。はじめに地元災害ボランティア団体より水害におけるボランティア活動の様子を講演してもらい、実際の水害の様子などを擬似的に体験してもらった。次に、生命と水との関係を学習した後に、水の浄化に関する工作実験を行い、水と人間生活との関係について考えてもらった。



地元災害ボランティア団体による水害時のボランティア活動についての講演



炭を用いて組み立てた浄化装置により種々の廃液を浄化している。

③ 活動名 **大気を知ろう**

ア 日時 2013年7月27日（土）10:00～12:00

イ 場所 愛媛県立医療技術大学 北棟 539実験室

ウ 参加者数 17人

エ 講師 本学 助教 佐川 輝高、講師 加藤 徳雄

オ 概要：愛媛県内にも原子力発電所があり、大きな事故があった場合には、大気に運ばれる放射能の飛来が予想される。大気の性質や大気の成分などを実験観察し、簡易真空装置の工作・実験、大気の利用例としての筒状飛行機の工作を通して大気を体感してもらい、大気大切さを時間してもらった。



簡易真空装置を組み立てている。



手作りした簡易真空装置を用いて、常温での沸騰や減圧による物の変形などを観察している。

④ 活動名 **電波と災害**

ア 日時 2013年11月9日（土）10:00～12:00

イ 場所 愛媛県立医療技術大学 北棟 539実験室

ウ 参加者数 14人

エ 講師 本学 助教 佐川 輝高、講師 加藤 徳雄

砥部町災害ボランティア・アマチュア無線クラブ書記 玉井 康人

オ 概要：災害時において電波は情報伝達に重要となる。地元の砥部町災害ボランティア・アマチュア無線クラブより講師を招き、電波の基本的な性質の学習と災害時におけるAPRS活用の話を実演を交えながら行なってもらった。後半は鉱石ラジオの工作を行って、前半の復習および無電源のラジオによる情報の取得を体験し、災害と電波の関係を考えてもらった。



災害時のアマチュア無線の活用についての実演



災害時にも無電源で情報が収集できる鉱石ラジオを組み立てている。

⑤ 活動名 **光と発電**

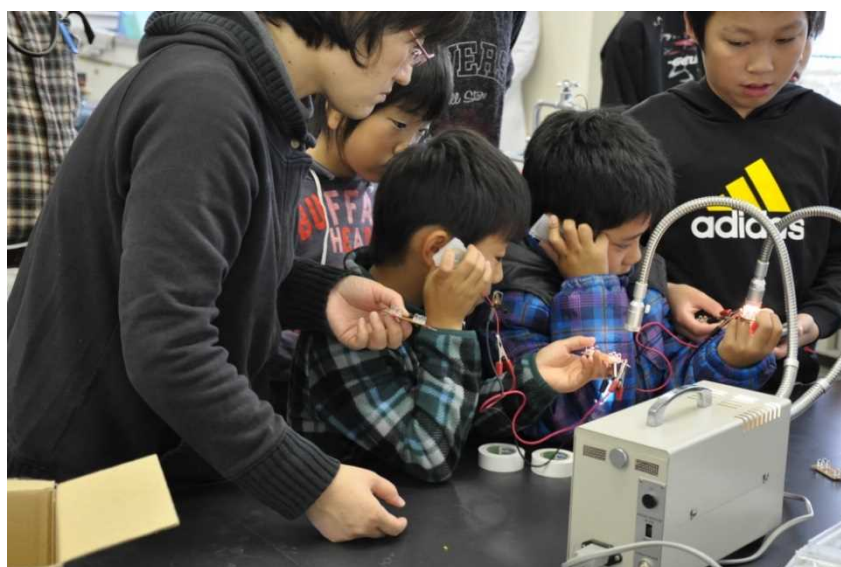
ア 日時 2013年11月10日（日）10:00～12:00

イ 場所 愛媛県立医療技術大学 北棟 539実験室

ウ 参加者数 17人

エ 講師 本学 助教 佐川 輝高

オ 概要：LEDによる光発電の原理を学習し、組み立てた装置で発電を体験した。クリーンエネルギーとして注目される光発電であるが、これを得る手段や蓄える技術などを基礎的な実験を行い体感してもらった。電気エネルギーと社会との付き合い方を理解し、自分で考えられるようになってもらった。



LED を使って組み立てた発電装置が発電することを確認している。



手回し発電機と電解コンデンサーを用いて蓄電の実験をしている。

⑥ 活動名 **粘土で表現しよう**

ア 日時 2013年12月14日（土）13:00～15:00

イ 場所 愛媛県立医療技術大学 北棟 539実験室

ウ 参加者数 13人

エ 講師 本学 助教 佐川 輝高

愛媛県立松山南高等学校砥部分校・デザイン科・教諭 永田公道

オ 概要：砥部町は焼物の街であり、慣れ親しんでいる陶芸により自分を表現することを体感してもらった。まず、陶芸に必要な熱に関して、光や物質との関係を学習してもらう。その後、松山南高等学校砥部分校デザイン科の教員生徒の指導によるオープン粘土を用いた陶芸品作りを体感してもらった。



オープン粘土を使って陶芸作品作り



松山南高校デザイン科の先生による陶芸作品の解説

⑦ 活動名 **絵で表現しよう**

ア 日時 2013年12月15日（日）13:00～15:00

イ 場所 愛媛県立医療技術大学 北棟 539実験室

ウ 参加者数 11人

エ 講師 本学 助教 佐川 輝高

久万美術館学芸員 神内有理

オ 概要：絵画の遠近法と科学の関係や歴史的背景などを解説後、遠近法による描き方の1手段に用いられたカメラの工作、熱現像紙による撮影・現像、およびタイルへの葉脈像等の現像を行い、科学と芸術のリンクをすると共に、これを通して絵画や写真による自己表現の体感をしてもらった。



久万美術館学芸員による講演



カメラの工作をしているところ

(5) 評価と課題

① 企画の成果

ア 目標の達成度について

＜本企画の目標の達成度（53％）＞

（ア）【参加人数】

参加者目標数は各回小学生・中学生20名と保護者、その他大人の参加者20名がであった。大人単独の参加に関しては、本学は女子が大部分を占める大学であることを考慮にいて積極的に宣伝しなかった。そのため、参加人数の達成度は小学生・中学生を中心に行う。

第1回 7月13日

小学生・中学生参加希望者は25名、参加者23名（達成率115%）、大人15名

第2回 7月21日

小学生・中学生参加希望者は23名、参加者15名（達成率75%）、大人9名

第3回 7月27日

小学生・中学生参加希望者は16名、参加者10名（達成率50%）、大人7名

第4回 11月9日

小学生・中学生参加希望者は20名、参加者7名（達成率35%）、大人7名

第5回 11月10日

小学生・中学生参加希望者は19名、参加者9名（達成率45%）、大人8名

第6回 12月14日

小学生・中学生参加希望者は20名、参加者7名（達成率35%）、大人6名

第7回 12月15日

小学生・中学生参加希望者は21名、参加者4名（達成率20%）、大人7名

夏休み期間開催分に関しては、これまで経験上、参加者の発熱等体調不良による欠席や学校行事との重なりなどのより、回によってこの程度の参加者の差異はあると考えられるので、企画としては目標達成出来ていると考えられる。

しかしながら、期間を大幅に空けて行った第4～7回は総合大学の学生祭や旅行シーズンと重なるなど別の用事が後から入った、或いは、興味が薄れてしまったなどの理由で参加者が減ってしまったと考えられた。

大学としての事業ではないが、今回、講師を務めた本学教員は地元の子育てボランティアとの共催や、地元自治体からの依頼で、科学教室を年に数回以上開催している。この際にはPTAなどを通じて口コミによる参加者の輪を広げていっている。政令地方都市や、県庁所在地で行う科学教室においては、相当数の参加者を動員することが可能であるが、それ以外の田舎の地域で行う科学教室において、参加者の確保は極めて難しいものとなっている。今回も近隣の小学校中学校でのチラシの配布、地方公共団体広報誌への掲載、CATVでの広報などを行って、参加希望者数としては目標達成することは出来たが、実際に来場する参加者の確保は大学からの依頼だけでは不十分であった。PTAや地

元の子育てボランティアなどへの協力依頼無しには不可能であることが再確認される結果となってしまった。

また、冬季に開催する場合には冬休み中でなければならぬと考えられた。実際に、この企画後に、地元自治体からの依頼で冬休み中の小学生向け科学教室を行ったが、過疎地域で人数は少ないものの、その地域の全小学校の全生徒の参加を得ることができた。一方、今まで行っていなかった大人の参加募集で2名の方に皆勤で参加していただいた。毎回質問も沢山されており、大人向けの科学教室を開催することも可能でありそうな感触を受けた。

(イ)【満足度】

第1回「怪我と身体」の回と同様の内容はこれまでも何回か科学教室として実施してきたが、「あまり好きではなかった」という評価をもらったのは初めてだった。生物・医療系の場合、どうしても骨や血、筋肉などを扱うために好きではないという子どもが存在することは、出前授業などでも体験してきたことであったが、希望者の集まる科学教室では初めての経験であった。

その後は概ね満足度は良好であったと考えている。

(ウ)【総合評価】

小学生・中学生の目標達成率が53%、その後はイーブンであるとし、また、開催時期と回数などの問題点が出てきたことも加味して、目標達成度は53%とした。

但し、政令地方都市や、県庁所在地ではない田舎で行う場合を加味すると目標達成度は70%程度にはなるのではないかと考えている。

イ 成果について

小さな保健科学系単科大学である本学では、総合大学の科学教室で行われているような最新の機器を利用した科学技術や高額な材料や試薬を使った科学教室を行うのではなく、身の回りに溢れる自然現象や安価なもので自ら作る実験装置で自然現象を大まかに捉え、それに関する科学的な考察や、医療における応用などを参加者に体感してもらえよう科学教室を行っている。これにより、大きな大学との差別化をはかっている。

科学教室や科学の祭典などの参加者には派手なものが望まれる傾向強いが、じっくり考える、自分の身の回りにある安価なもので再現できるということを参加者に「楽しい」と思ってもらえるように内容を吟味している。

今回は『災害－自然現象理解－芸術による心の表現』の関係から生み出される『災害に負けない心』を大きなテーマとし、科学に対する興味を惹起、郷土愛からくる住民ネットワーク構築を計った。

講師に地元の災害ボランティアや学芸員を招くことで、これらを十分遂行することが出来た。いわゆる「先生」が実験工作として内容を扱うのではなく、ボランティア団体の方々が実体験に基づいた臨場感溢れるお話や、地理的にも人的にも組織立った実演を

して頂くことで、参加者の目の輝きがまったく変わり、普段はシャイで質問をなかなかしてくれない参加者達自らが講師のまわりに集まり、休み時間を越えても質問攻めをおこなうという状態であった。現在、小学校や中学校でも色々な職業の方やボランティア団体の方に話をしてもらおう機会があるが、話の内容に関して即刻科学的解析と実証を行えるという点が、科学教室で行う利点であると考えている。

また、小学生参加者において、自分で理解したことを元に自分で決定する姿が第6回、第7回には見ることが出来た。

一方、外来講師の話をスタッフもその場で当然聞いており、これまで災害復興支援に後の方の時期からしか関われなかったメンバーも医療系大学の一員として、災害直後における、その役割を再発見・再認識することができた。外来講師を質問攻めにしたのは参加者だけではなく、スタッフも同様であった。当初考えていかなかった効果として、本学のような小さな保健科学系単科大学では他分野との交流が無く、全ての思考が専門に偏っているが、それを補正するように他分野の発想の展開に触れられることで、知的刺激を受けると共に自らも新しい発想を手にいれらるという利点が明らかとなった。特に第7回の学芸員の外部講師の回では本企画には関わっていない教員も参加し聴講していた。それらの教員によると科学教室だけではなく、これをこのままFD活動としても良いのではないかという話も出ていた。

また、助手として参加した学生と外部講師との間に実は間接的にこれまでも関わりがあったことなどが判明し、外来講師を派遣してくれた災害ボランティアとの交流が深いものとなった。

以上の成果より、本企画は以下のようなモデルとなりえたと考えている。

『災害—科学—芸術』という一連のラインのリンクから

1. 災害を身近な自然現象、身近な実験材料から理解させられる
2. 『華々しい科学実験＝自然科学』ではないことを理解し、常に自然科学と向き合いながら生活していることを理解させられる
3. 科学は自然科学だけではなく、社会科学もあり、両者はお互いに関連しながら存在している、分けることすら難しいことを理解させられる
4. 心を表現するということは科学的な分析と実行があってはじめてできるものであることを理解させられる
5. 科学とは先入観無く全てを受け入れることであり、それは人間関係にも応用できるものであることに気付かせることができる
6. 災害時に限らず、困難のあった場合に科学的知識、手法、理解認識で心を強く保つことができることを理解させられる
7. 災害ボランティア団体を外部講師としてよぶことで、災害復興支援ネットワークの基礎と、被災者・援助者の両方の立場を実感に近いバーチャル体験することができる

これに加え

8. 『先生』ではなかなかできない『生きた「心の揺さぶり」』を災害ボランティア等

の外部団体との共同作業で引き起こすことができる
ような科学教室のモデル的な活動となりえたと考えられる。

一方、述べたように『災害—科学—芸術』という科学教室のモデルとしても利用可能であるが、更に、もっと広く『地域ボランティア—自然科学—社会科学』という科学教室のフォーマットとしても利用可能であると考えている。

② 今回の課題と今後の取り組みについて

ア 今回の課題と解決策について

(ア)【参加者数】

政令指定都市や県庁所在地、あるいは都会に近い都市ではない地域で科学教室を行う場合には共通の悩みであると考えられる参加者数の少なさが最大の問題であるといえる。また、今回参加希望者は目標数に届いていたが、このような地方の場合には参加者の体調などの問題以外に、共働き家庭が多いために保護者の都合で当日に来ることが出来ないという問題も多々含んでいる。このような場合もPTAなどのロコミを最大の募集フォースとしていると近所で都合のつく保護者が会場まで連れてきてくれるというような大きな利点も含んでいる。広報活動は公平に広く募集すれば、それで良いということではなく、その地域の実情にあった広報活動を行うべきであると考えられた。

(イ)【骨等の用い方】

科学教室において生物学・医学を扱うものは少なく、これまでその穴を埋めるべく活動を行ってきたが、本物の骨等を扱う場合に平気な参加者はこれ上無く楽しいものとなっているようだが、苦手な参加者にとってはあまり嬉しいものではない。また、常に確認しながら行っているが、例えば手羽先の場合に鳥アレルギーがあるかもしれないという問題を含んでいる。これをクリアするためには、骨格に関しては、型に流し込んで作るプラスチック製の骨模型を用意すべきなのかもしれない。今回もそうであったが、手羽先の骨の組立ての場合、一般のスーパーで販売されている手羽先は小さいために、思うように骨格標本が作れず、すねてしまう参加者も出てしまった。これを解決するためには、天草大王という地鶏の手羽先を用いると骨格が大きいので組み立てやすく、参加者の満足度は上がる。しかしながら、この手羽先は高価であるため、自作のプラスチックレプリカ骨格を多数用意する必要があると考えられる。ただし、骨格の内部構造や血管・気囊の出入り口をデモとして見せるために、本物の骨格を1つは用意しておく必要がある。

(ウ)【今後よりモデル的な活動となるために】

大人相手に科学教室をすることは参加者側の処理能力が大きいために、それほど開催者が努力することなく進行することができる。しかしながら、処理の力は低いものの、好奇心や知識欲がおおせいな子どもが参加者の場合、わかりやすい話し方、進行の仕方の検討もさることながら、予想外の答えにも十分に受け答えられる知識の広さと瞬時の知識のリンク探しの能力が必要となってくる。外部講師で子どもへの説明慣れしていない講師には開催側の講師が全体としてワンセットで動いて科学教室を完成させる覚悟が必要となる。勿論、事前の入念な打ち合わせが必要となる。また、開催側も自分の得意な分野ではない場合、企画立ち上げ段階から外部講師とは連絡を取り合い、その内容の知識の取得と自分の知識とのリンクをはかる下準備が必要となる。

『災害などの現象—自然科学—社会科学』のリンクを普段から常に頭の中で形成しておかなければいけない。例えば、医療というと生物学的な自然現象ととらわれがちであるが、実際には、生物を中心とするものの、物理化学、更に社会科学にまで広範囲におよぶ知識がなければ医科学・保健科学を教える資格が無いの同等のことであるといえる。

この知識リンクをもったコントローラーと各専門の外部講師とのコンビネーションが、本企画のような広範囲をリンクさせた科学教室の成否を分けると言って過言ではないと考えている。

今回は、災害を空気、水、怪我などのようなわけ方で各回行ったが、災害のカテゴリー別などの分類で行い、それぞれの原理と医療や社会生活への応用、あるいは、生命にとって普段はどのように重要なものであるのかなどをまとめるなど、切り口を変えれば、あらゆる組み合わせが可能となる。また、『災害』の部分をボランティア団体が存在するなんらかの事象に変更すれば更に応用性を増すことができる。

イ 今後の取り組みについて

東日本大震災以降、これまで少しずつ災害と自然と生活の関係を科学的に見るという内容で科学教室を行ってきて、今回は、その中間まとめ、災害ボランティア団体からの外部講師の起用試験、そして美術の専門家外部講師の起用試験のような感じで企画を立てた。参加人数の確保には問題の認められたものの、その他に関しては、第一段階としては成功と考えている。さらに、改変を加えながら、本企画のような科学教室を展開して行こうと考えている。

他方、過疎化の進んでいる自治体では子ども達に科学的なイベントの開催を行いたいと熱望しているが、予算的な問題や人的な問題で開催できずに困っているという事実も存在する。本学自体も科学教室を自力で行うほどの金銭的な余力は無く、科学教室や実験を伴う出前授業なども、現在は個人として依頼を受け、すべて無償でその要望に答えている。過疎地域では、全校全生徒が集まっても20人に全く満たないという状況ではあるが、人数が少ない地域は科学的な環境から外しても良いということにはならないと考えている。要望があり、一人当たりの対費用効果が同じであるならば、

参加人数の少ない科学教室も実施されるべきである。J S Tや子どもゆめ基金の助成金は自治体が関与するものに関しては申請出来ないようであるが、自治体毎での予算的状况を考慮して、この辺りの申請基準を再考して頂けるとありがたいと考えている。

個人的なネットワークを通じて科学教室の依頼の舞い込むこのような自治体が近くにあるということは県内全体からすると、実際にはかなりの数が存在するのではないかと想像している。今回の企画では本学で行ったが、社会からの要請は、実験道具を持ち、学外出ることにあるのではないかと考えている。これからも、本企画のような分野が多岐にわたる総合的な科学教室を要望のある限り展開していこうと考えているが、材料費だけでも助成していただけるシステムをいずれかの団体が構築してくれることを祈るばかりである。

2 調査研究機能

1) 尿沈渣コンサルテーションシステムの構築

尿沈渣検査コンサルテーションシステムの構築

ー南予地域中小規模病院における泌尿器系悪性腫瘍検出のためにー

(1) 概要

我々は、昨年度より一般検査の尿沈渣の疑問症例についてのコンサルテーションを行っており好評を得ている。一般検査には尿沈渣だけでなく体腔液中の血球分類の依頼もあるが、体腔液中には各種血球のみならず反応性中皮細胞や癌細胞などもしばしば出現する。昨年度の活動を通じて、一般検査を担当する臨床検査技師は体腔液の判定にも苦慮していることが判明した。そこで、今年度は尿沈渣に加えて体腔液のコンサルテーションも行う。

(2) 実施主体、協力機関

実施主体：本学地域交流センター

協力機関：愛媛県臨床検査技師会、市立八幡浜総合病院臨床検査科、宇和島社会保険病院臨床検査科

(3) プロジェクトメンバー

企画者：大崎博之、則松良明

協力者：此上武典（市立八幡浜総合病院臨床検査技師長）

原 正樹（宇和島社会保険病院臨床検査技師長）

(4) 事業内容

指導者のいない施設における、尿沈渣・尿細胞診と体腔液細胞診の疑問・判定困難症例の標本を本学に郵送してもらい、鏡検後に結果を報告した。また、随時電話での解説も行った。

(5) 評価と課題

今回アンケートを実施できていないもののコンサルテーションを受けた施設の担当者からは「本当に助かる」との評価を得ている。今年度は尿沈渣・尿細胞診に加え、体腔液細胞診のコンサルテーションも行ったためコンサルテーション総数は 23 例と増加した（昨年度 8 例）。しかし、以前から尿沈渣・尿細胞診のコンサルテーションを行ってきた市立八幡浜総合病院と宇和島社会保険病院からの尿沈渣・尿細胞診の依頼数は減少している。これは、コンサルテーションと講義・実習指導により判定能力が向上し、疑問

症例が減少したためと考える。コンサルテーションは高知県東部の小規模施設とも行っているが、南予地域と同様に継続年数とともに判定能力の向上と依頼件数の減少を認めた。上記の成果は、昨年年第 52 回日本臨床細胞学会秋期大会と第 32 回高知県医学検査学会で発表し、2 編の論文として報告した^{1,2)}。

コンサルテーションにより依頼施設の技師の能力向上を実感できた。本企画は本年度で終了するが、今後も南予地域に限らず小規模施設のコンサルテーションを継続するつもりである。

(6) 論文

- ①此上武典、大崎博之、山村展央、則松良明、日野香織：尿中に多数の尿細管上皮細胞が出現した小児ネフローゼ症候群の 1 例、愛媛県臨床検査技師会誌、2013;32:107-109.
- ②橋本景子、池地世紀、松井理恵、西岡美紀、大崎博之：小規模施設における尿沈渣疑問症例コンサルテーションシステムの検討、高知県臨床検査技師会学術誌「こうち」、2014 ; 43 : 118-121.

2) 高齢者の歩行能力の向上と転倒防止等安全を高める健康づくり事業の評価指標の検討（調査研究）

（1）概要

ア 目的

平成 24 年度に標記の健康づくり事業（地域支え合い事業）に取り組んだ結果、この種の介入プログラムの評価指標として、活用可能性のある測定項目が明らかとなった。本年度は、調査対象者を拡大し有用な評価指標を特定することを目的とする。

イ 対象者

地域の健康教室に参加している自立高齢者 145 名

（2）主催 地域交流センター

ア 担当者 岡村絹代（地域交流センター員）

イ 協力 砥部町社会福祉協議会、砥部町保険健康課

（3）事業内容

ア 日時

平成25年10月7日（月）8：30～11：30

20日（日）8：30～17：30

21日（月）9：00～12：00

イ 場所

砥部町中央公民館、砥部町老人福祉センター

ウ 参加者数

合計 118 名

エ 実施内容

- ① 健康状態や転倒リスクスコア、足の状態を問う自記式質問紙調査および、下肢の形態と機能（足部・足趾・爪の形態、足趾牽引力）を評価した。
- ②測定結果はその場で簡単にコメントするとともに、希望者には砥部町保険健康課を通じて書面で返却した。

オ 参加者の反応

- ・足の形状や足趾牽引力などは、普段測定できない項目であり、対象者の関心は高かった。
- ・普段行っている足の手入はさまざまで、特に爪や足趾の変形が多くみられた
- ・調査への協力を通じて、足の健康づくりへの啓発となった。

（4）評価と課題

現在、データ収集・集計が終了し、各項目や関連性を分析中である。自立高齢者の転倒予防に有用な評価指標を特定し、今後は県内町村のサロンや介護予防事業などでの介入研究を検討し、高齢者自らが日常的に実践できる転倒予防に向けたプログラムを検討していく予定である。

Ⅲ 教員の社会貢献活動 報告

1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
宮内清子	企画・実施:愛媛県	「愛媛県介護支援専門員地域リーダー養成研修」は、平成 18 年度から要請をスタートした“主任介護支援専門員”に、さらに地域包括ケアの力量を形成することを目的に平成 22 年度から新規にスタートさせた高齢者介護の地域リーダー(各市町推薦)育成のための研修であり、愛媛県長寿介護課の支援要請を受けて研修プログラムの作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、基本的な講義、県内7ブロックでの演習支援、実施後の評価に協力している。また、年 2 回の研修会には、講義・助言者等を務めている。 講義:①地域包括ケア体制の実現を目指すコミュニティネットワークづくりと地域リーダーの役割、②「地域別演習」報告への助言およびグループワークのまとめ・助言	主任介護支援専門員研修を修了した地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛媛県社会福祉協議会	平成 25 年度愛媛県介護支援専門員「実務研修」6 日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに講義・演習を一部担当。 実務研修は、資格試験に合格した介護支援専門員に対する最も基本的な研修であり、資格取得者の動機付けと力量形成を目指して、指導者チームを組織化して毎年度評価を重ねながら、改善を図っており、平成 24 年度から設置した質保証を目的とする評価委員会を中心に、指導者間の指導の均質化を図るべく評価のポイントなどを資料化し、一定の成果を修めた。 担当科目:ケアマネジメントの意義と役割、ケアマネジメントの展開過程、居宅サービス計画作成の講義・演習、チームアプローチ演習、介護予防ケアプランの考え方講義・演習	介護支援専門員研修受講資格試験合格者
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛媛県社会福祉協議会	平成 25 年度愛媛県介護支援専門員「基礎研修」3 日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに講義・演習の一部を担当。基礎研修は、実務に就いて 1 年未満の実務者のスキルを定着させることを目的としており、演習を中心にしてケアマネジメントの技術を確認しつつ指導するもので、毎年度教育の評価を行い修正を加えながら展開している。 担当科目:ケアマネジメントのプロセスとその基本的な考え方	介護支援専門員就業後 1 年未満の者

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛媛県社会福祉協議会	平成25年度愛媛県介護支援専門員「専門研修Ⅰ」3日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、講義・演習の一部を担当。この研修は、就業後6か月以上の実務経験者の専門性を向上させることを目的としており、選択科目を導入し、個々人のニーズにも対応している。 毎年度評価を行い、教育内容に修正を加えながら展開している。 担当科目:ケアマネジメントを担う介護支援専門員の倫理	介護支援専門員就業後6か月以上の者
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛媛県社会福祉協議会	平成25年度愛媛県介護支援専門員「専門研修Ⅱ」3日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、講義・演習の一部を担当。専門Ⅱ研修は、就業後3年以上の実務経験者の専門性を向上させることを目的としており、介護保険利用者の事例検討を中心に資質向上を図っている。毎年度評価を行い、教育内容に修正を加えながら展開している。 担当科目:事例検討の理論と実際(演習を含む)	介護支援専門員就業後3年以上の者
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛媛県社会福祉協議会	平成25年度「主任介護支援専門員養成研修」は、平成18年度の介護保険法改正により都道府県に義務付けられ継続実施している研修で、市町村地域包括支援センターなどにおいて地域の介護支援専門員のスーパーバイザーとして卓越したマネジメント力と地域ケアネットワーク構築の役割を期待して育成するもので、12日間の研修プログラムを展開しており、一部の講義を担当している。 担当科目:主任介護支援専門員の役割と視点、事例研究及び事例検討の指導方法、地域ネットワークのつくり方(演習を含む)	介護支援専門員実務経験5年以上で、市町村の推薦を受けた者の中から選考
宮内清子	愛媛県老人クラブ連合会 平成25年度「健康づくり大学校」	愛媛県老人クラブ連合会主催の11日間の研修会の運営副委員長として、八幡浜市における「南予地区高齢者大学校」の企画・プログラム作成を支援し、一部講義を担当した。 担当科目:高齢者の健康づくり	南予地区各市町の老人クラブ役員及びリーダー
宮内清子	企画・実施:愛媛県	平成23年度から制度化された特別養護老人ホーム等に勤務する介護職員等に対する「たんの吸引・経管栄養等の研修」をスタートさせるに当たり、長寿介護課・障害福祉課の研修委員会の構成員として企画運営に参画し、研修対象の選定、研修プログラムの作成・研修講師の選定などについて助言・支援を行うとともに、一部の講義、全体の調整、研修の評価等の役割を果たした。研修3年目を迎えて、研修プログラムも円滑に運ぶようになり、前年度よりも効率的に実施できた。 担当科目:保健医療制度とチーム医療	愛媛県内の特別養護老人ホームなどで勤務する介護福祉士、障がい者の在宅ケアに関わる介護福祉士等

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
宮内清子	企画・実施：今治保健所	市町村合併や分散配置が進む市町においては、地域の健康課題に即した活動を推進する上で多くの課題を抱えている。エビデンスに基づいた効果的な活動を実施するために、「地区診断から始まる保健師の地区活動」をテーマに、平成 25 年度の保健師研修の企画について助言を行うとともに、2 回の研修会において講義、実践事例の検討の助言を行った。	今治保健所 企画担当保健師、健康増進課保健師等
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義	介護職員 58 名
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」の研修講師	介護職員 4 名＋指導看護師 4 名
加藤徳雄	愛媛県立医療技術大学 地域交流センター	地元の子どもを対象に実験を通して理科のおもしろさを発見し、自然科学への興味を喚起する「おもしろ理科教室」を 3 回実施した。開催時期は 8 月に 1 回、10 月に 2 回。次年度も継続的に開催したい。	子どもとその保護者
野本百合子	愛媛県立病院	平成 25 年度県立病院看護職員合同研修 平成 25 年度当初に、県立中央病院の 4 病院の教育担当者から依頼を受け、県立 4 病院に所属する看護職員のうち主に就職後 3 年目の職員を対象とする「看護過程（基礎編）の研修計画への助言および講義を実施したするとともに、グループワークへの助言などを行った。	愛媛県立 4 病院に所属する看護職員（主に 3 年目）
野本百合子	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義	介護職員等
青木光子	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
岡田ルリ子	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員等
徳永なみじ	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
相原ひろみ	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
野村美千江 田中美延里 奥田 美恵	愛媛県保健福祉部	平成 25 年度愛媛県中堅期保健師スキルアップ研修について企画・運営の相談をうけるとともに、集合研修時のコンサルタントとして、7 カ月間の継続的な研修に参画した。	医療対策課 地域看護係

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
田中美延里 奥田美恵 入野了士	愛媛県保健福祉部	平成25年度愛媛県地域保健師等(新任期・プリセプター)研修会について相談を受け、企画参画兼講師として、継続的な研修各3回の内各3回を実施した。	医療対策課 地域看護係
窪田 静	大洲市役所	福祉用具リーダー養成講座の企画と継続開催、修了者による自主的な勉強会の継続と発展について助言し、参加した。	地域包括支 援センター 職員
窪田 静	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員等
田中美延里	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員等
奥田美恵	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員等
入野了士	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員等
北原 悦子	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
豊田ゆかり	社団法人愛媛県看護協 会	社団法人愛媛県看護協会会員教育「看護研究Ⅰ」講師として研修を担当した。	県内看護師 職
豊田ゆかり	愛媛県保健福祉部障害 福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」における演習の講師	介護職員 学校教員
上野恭子	公益社団法人日本看護 協会	公益社団法人日本看護協会 全国産科病棟管理者交流集会「助産師の適正配置の考え方」においてファシリテーターとしての役割を担った	全国看護部 長、副看護部 長、産科病棟 看護管理者、 助産師職能 委員、県協会 担当者
上野恭子	砥部町立砥部中学校 学校保健委員会	砥部町立砥部中学校 平成25年度 「学校と家庭における性教育 ～地域との連携を生かして～」 指導助言を行った	砥部中学校 関係教員・ PTA 役員
枝川千鶴子	社団法人愛媛県看護協 会	社団法人愛媛県看護協会会員教育「院内における看護研究指導の改善」においてファシリテーターとしての役割を担った。	県内看護師

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
枝川千鶴子	社団法人愛媛県看護協会	平成 24 年度愛媛県保健師助産師看護師等実習指導者講習会「小児看護学」の講義を担当した。	県内保健師・助産師・看護師
枝川千鶴子	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
枝川千鶴子	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」における講義および演習の講師	介護職員 学校教員
中越利佳	社団法人愛媛県看護連盟	教育部会主催の研修会の企画運営	看護職員 看護教員
森久美子	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員等
森久美子	公益財団法人 えひめ女性財団(愛媛県男女共同参画センター)	パパママ子育てほやほやセミナー企画・運営・講師	1 歳までの子どもとその 父母、祖父母
藤原紀世子	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員等
藤原紀世子	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」における演習の講師	介護職員 学校教員
高田律美	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員等
中西純子	愛媛県保健福祉部地域対策課	平成 25 年度愛媛県中小病院等看護体制支援事業による研修会の実施	愛媛県内 200 床以下病院の看護管理者)
中西純子	愛媛県保健福祉部地域対策課	平成 25 年度愛媛県中小病院等看護体制支援事業によるコンサルティング事業企画・運営および 4 回のコンサルティングの実施(2013.11.6, 12.26,2014.2.17,3.25) ならびに前年度コンサルティング事業実施施設のフォローアップ	新居浜徳洲会病院 白石病院
中西純子	愛媛県保健福祉部長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」の研修企画、県当局および研修講師との調整、試験問題作成、補講の実施	介護職員+指導看護師
中西純子	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」の研修企画、県当局および研修講師との調整	介護職員＋指導看護師

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
西田佳世	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
西田佳世	愛媛県保健福祉部障害 福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」における講義	介護職員 学校教員
島田美鈴	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
松井美由紀	愛媛県公営企業管理局 県立病院課	「愛媛県看護職員合同研修：看護過程の展開」研修において、企画・運営において相談を受け、ファシリテーターおよび講師として研修を実施した。次年度も引き続き、企画の相談役として関わり支援していく。	県立病院看 護師
松井美由紀	公益社団法人愛媛県看 護協会	「院内看護研究の効果的な指導に向けて」研修において、具体的な指導方法のあり方についてファシリテーターとして関わった。次年度も引き続き、支援していく予定	県内看護師
松井美由紀	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
岡村絹代	社団法人愛媛県看護協 会	愛媛県看護協会会員教育「院内看護研究の効果的な指導に向け」の中のグループワークのファシリテーターを務めた	県内看護師
岡村絹代	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
岡村絹代	愛媛県保健福祉部障害 福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員 学校教員
西森旬恵	愛大附属中学校	「ようこそ先輩！働く人に学ぶ 20 の講座」における講師	中学生
西森旬恵	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
梶原理絵	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
梶原理絵	愛媛県保健福祉部障害 福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（特定の者対象）」における演習の講師、評価	介護職員 学校教員
小西円	愛媛県保健福祉部長寿 介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修（不特定の者対象）」における講義および演習の講師、評価	介護職員等
則松良明	日本臨床細胞学会	平成 26 年度、27 年度日本臨床細胞学会での春季大会，秋期大会の学術内容の企画の相談を受け、意見を述べた。	医師、細胞検 査士
則松良明	日本臨床細胞学会愛媛 県支部	平成 25 年度日本臨床細胞学会愛媛県支部における学術集会で の内容の企画の相談を受け、意見を述べた。	医師、細胞検 査士

氏名	主催者	講座・研修会内容 (開始時間、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
坂東史郎	日本臨床検査 自動化学会	平成 25 年 4 月 5 日に企画会議を行い、平成 25 年 10 月 10 日（木）に「血液凝固検査の標準化の現状」と題した、第 3 回血液検査機器技術セミナーを開催した。凝固検査の現状と今後の課題についての解説を行い、各施設の技術向上を図った。	全国の臨床 検査技師
坂東史郎	日本臨床検査 自動化学会	平成 25 年 10 月 11 日（金）に第 1 回企画会議を行い、第 3 回血液検査機器セミナーの終了報告および反省と第 4 回血液検査機器技術セミナーのテーマと内容についての企画した。 平成 26 年 4 月 4 日（木）に第 2 回企画会議を行いセミナーの最終企画と、10 月 9 日（木）にセミナーを実施することを決定した。	全国の臨床 検査技師
坂東史郎	四国臨床検査技師協議 会 血液検査研究班	平成 25 年 8 月 3 日に世話人会を開催し、平成 25 年度 第 2 回四国血液検査研修会と平成 26 年度第 1 回四国血液検査研修会の企画立案における助言を行った。研修会は平成 25 年 12 月 2 日に高知大学医学部で「形態から診断へのアプローチ～骨髄像の見方～」のテーマで、症例の観察と解説を実施した。平成 26 年度第 1 回四国血液検査研修会は平成 26 年 6 月 7～8 日に徳島大学医学部でを実施することとなった。	四国地区の 臨床検査技 師
坂東史郎	愛媛県立医療技術大学 地域交流センター	平成 26 年 3 月 1 日に公開講座『技術スキルアップ講座 第 3 回血液検査』を開催した。今回は愛媛県臨床検査技師会血液検査研究班、遺伝子・染色体検査研究班との合同後援会とした。講演は「1. 数値変化の情報を捉える（貧血・感染症の機序等々）」、「2. 赤血球系・巨核球系・間質細胞の形態学的特徴について」、「造血器悪性腫瘍の発症機序」の 3 題を行った。	県内の臨床 検査技師
佐川輝高	砥部町広田支所	広田地区小学生対象の夏休み理科教室および冬休み理科教室の企画段階からの助言、内容の決定、講師を務めた。	一般

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画

行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏 名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー 構成と所属	成果の公表
宮内清子	愛媛県介護予防市町支援事業（愛媛県介護予防市町支援委員会） ＊市町支援事業計画の策定 ＊介護予防事業評価事業 ＊介護予防事業推進方策の検討	平成 25 年度介護予防市町支援事業の計画策定、事業の運営について、支援委員会の会長として役割を果たした。主な内容として、平成 23 年度に作成した「介護予防に関する指針（運動、口腔、栄養、閉じこもり・認知症予防）」の改訂版を使用して、1 市町で「複合プログラム」を実際に試行するモデル事業を展開し、プログラムの評価を行った。また、平成 24 年度から重点事業となった地域包括ケアを推進するため、昨年度からモデル事業を展開している 1 地区で継続して地区診断の助言支援を行った。	愛媛県内の介護予防に関わる関係職種(医師・歯科医師・保健師・理学療法士・作業療法士・歯科衛生士・介護福祉士・住民代表等)	①モデル地区における複合プログラムモデル事業について報告書作成 ②運動指導用 DVD の作成
宮内清子	第 5 期「愛媛県高齢者保健福祉計画・愛媛県介護保険事業支援計画」の推進	愛媛県高齢者保健福祉計画等推進委員会の副会長として、23 年度に作成した第 5 期の「愛媛県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画」に基づき、事業の推進方策について協議した。また、平成 26 年度に策定予定の第 6 期計画の策定に向けて、実態調査の企画・計画策定スケジュール等の協議を行った。	推進委員会の構成員：学識経験者、医師会・歯科医師会等関係団体の長、高齢者保健福祉に関わる機関施設等の代表者、住民代表など	愛媛県第 5 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画：「新しい高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を公表、各関係機関・団体等に配布
宮内清子	愛媛県「母子保健研修事業」	母子保健法の改正に伴い、保健所と市町村の担う役割にも変化が生じていることから、愛媛県の主管課においては、3 年計画で「母子保健研修事業」を実施することになり、その企画実施について助言・支援を行った。また、平成 25 年度の第 1 回研修会において、母子保健事業の考え方や愛媛県の課題について講演を行った。	愛媛県保健福祉部健康増進課担当職員	研修プログラム並びに実施報告書を作成する予定

氏 名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー 構成と所属	成果の公表
宮内清子	愛媛県・日本公衆衛生協会主催（厚生労働省委託事業）「保健師等ブロック研修会(中四国ブロック)」	自治体(保健所・市町) 保健師等が効果的な保健活動を展開するための研修事業として、全国 6 ブロックにおいて毎年度実施しているもので、平成 26 年度は愛媛県が企画・運営を担当するため、本企画の助言・支援を行っている。次年度が実施年になるため、引き続き支援の予定である。	愛媛県保健福祉部医療対策課担当職員	研修報告書作成予定
宮内清子	厚生労働省・愛媛県・松山市主催「健やか親子 21 全国大会」	母子保健国民運動計画「健やか親子 21」の推進を目的として、毎年度実施している全国大会で、都道府県が輪番で担当しており、平成 26 年度は愛媛県で開催される。本大会の企画・運営に当たる愛媛県・松山市の主管部局の要請を受け、企画・実施に関する助言支援を行う。開催の時期は、平成 26 年 11 月の予定である。	愛媛県保健福祉部健康増進課母子保健担当、松山市健康づくり推進課母子保健担当	大会要項、実施報告書作成予定
宮内清子	第 2 期「松山市地域福祉活動計画(なもしプラン)」及び地区社協活動計画の推進に関するアドバイザー	第 2 期松山市地域福祉活動計画の進行状況について報告を受け、進行状況を評価するとともに、25 年度は本格的な計画策定を行った。	委員会の構成員：学識経験者、地域の民生委員・PTA・地区社協代表、まちづくり等の NPO 団体、保健福祉関係組織代表者、福祉業務従事者、高齢者代表など	第 3 期地域福祉活動計画を公表予定
南貴子	内閣府最先端次世代研究開発支援プログラム「グローバル化による生殖技術の市場化と生殖ツーリズム」	生殖補助医療における倫理的・法的・社会的諸問題について、家族をめぐる法と制度の観点より、分担・研究を行っている。	研究者約 30 名	『グローバル化時代における生殖技術と家族形成』（日比野由利編）における分担執筆

氏 名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成 と所属	成果の公表
野本百合子	院内看護研究研修	平成 24 年度に実施した研究成果の発表に向け、データ分析、抄録のまとめ方などについて助言した。また、平成 25 年度に開始された研究に関し、研究計画書の作成、データ分析の方法、抄録のまとめ方について助言した。	四国がんセンター 看護師など約 40 名	院内研究発表会 等で発表
相原ひろみ 野本百合子	十全総合病院 看護部	平成 24 昨年度から継続してきた看護研究を進めるにあたり、受講者からの相談を受け、研究発表に向けて支援した。	十全総合病院看護 師 8 名	院内看護研究発表 会および愛媛看護 研究学会で発表
相原ひろみ	院内看護研究研修	院内看護研究の研修において、看護研究計画書の書き方、データ分析、論文の書き方等に関して、助言・指導を行った。	松山市民病院の 院内看護研究研修 に参加した看護 師 13 名	院内看護研究発表 会および愛媛看護 研究学会で発表
野村美千江	愛媛県在宅がん療養者 ニーズ調査	県保健福祉課と県保健所がすすめている当該テーマの調査研究について助言した。	保健福祉課、保健 所企画課保健師	報告書としてまとめ、関係諸機 関に配布
野村美千江	「自治体における生活 習慣病重症化予防のため の受領行動促進モデル による保健指導プログラ ムの効果検証」	厚生労働科学研究補助金による戦略的研究（大阪大学）に協力し、介入自治体職員の研修等に参画した。	大阪大学大学院 医学系研究科公衆 衛生学	平成 30 年 3 月ま で実施
野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士	自治体に働く中堅期保 健師の専門能力を育成 する 研修評価に関する研究	中堅期保健師研修（7 ヶ月間）による受講者の専門能力育成を尺度を用いて評価するとともに直属上司へのインタビューで職場への影響を評価する。	愛媛県医療対策 課および愛媛県 看護協会	平成 26 年度に学 会発表、論文公 表
野村美千江 岡村 絹代	認知症実態把握調査に よる地区診断と包括ケ ア計画	認知症に関する認識、介護や相談の経験、地域資源に対する意見などを一般住民・関係者に調査し、検討会チームで課題を明確にする。	愛南町地域包括 支援センター、 介護予防事業者 等による検討会	地区の住民学習 会や関係機関の 会議に報告する

氏 名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成 と所属	成果の公表
窪田 静	保健師助産師看護師等 実習指導者講習会	在宅看護論実習指導案作成	愛媛県看護協会	保健師助産師看護師等実習指導者講習会での発表
田中美延里 奥田美恵 入野了士 野村美千江	地域アセスメントに向けたアクションの価値 認識を深める新任保健師研修の試み	新任保健師の地域診断力を高める取り組みとして導入したワークシートの内容を分析する。	愛媛県医療対策課	平成 26 年度に学会発表予定
奥田美恵 田中美延里 入野了士 野村美千江	第 2 次砥部町健康づくり計画及び食育推進計画	第 2 次砥部町健康づくり計画及び食育推進計画の策定に関する助言	砥部町保険健康課	町民に公開
上野 恭子	障害をもつ子どもとその家族の実態調査	調査票の作成，集計を共同的に進め、今後の教育・指導について検討した。	福岡 LD 及び周辺児・親の会、会員	調査票から勉強会資料及び会員への報告会
島田美鈴	愛媛労災病院看護部研修	研究テーマ絞り込みから、研究計画書の作成の過程において、助言・指導を行った。	愛媛労災病院の看護師(看護部教育委員会の看護師と研究を行う 4 病棟の看護師を中心に 30 名弱)	研究計画書作成後、実施し、H26 年度に院内看護研究発表会にて発表予定
松井美由紀	「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」の評価と活用に関する調査	平成 25 年度事業計画として実施し、調査内容の検討、調査票の作成、集計を共同的にすすめる、今後の評価をすすめていく	愛媛県看護協会看護管理者教育委員会に属している者、8 名	事業報告書として作成予定および学会で報告する予定
岡村絹代	愛南町認知症実態把握調査	調査票の作成、分析について共同的に進め、今後の対策について検討した。	愛南町認知症実態把握調査検討委員会メンバー 7 名	報告書としてまとめ、関係諸機関に配布するとともに、学会で発表した。
岡村絹代	愛南町民の食育実態調査	調査票の作成，配布方法，分析方法について検討し，調査実施に向けての助言を行った。	愛南町食育協働部会 町民調査実施委員会メンバー 10 名	2014 年 4 月に町民 1000 人に向けてアンケート調査を実施予定

氏 名	テーマ (事業名・研究課題)	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成 と所属	成果の公表
岡村絹代	高齢者の歩行能力の向上と転倒防止等安全を高める健康づくりの評価指標の検討	砥部町の保険課および砥部町社会福祉協議会の協力を得て、健康な地域住民の足の形態と転倒リスクについての実態調査を行った。	砥部町の保険課職員 1 名、砥部町社会福祉協議会職員 1 名	データの収集が終了し、分析を進めている。 2014 年度の学会などで公表予定
大崎博之	尿細胞診に多数の尿細管上皮細胞が出現した小児ネフローゼ症候群の 1 例	尿細胞診の疑問症例についてコンサルテーションを受けているが、症例報告できる症例であったので学会で発表するように助言し、学会発表の指導を行った。	南予地域の臨床検査技師 1 名	第 52 回日本臨床細胞学会秋期大会
大崎博之	尿細胞診に癌細胞が出現した透析腎癌の 1 症例	尿細胞診の疑問症例についてコンサルテーションを受けているが、症例報告できる症例であったので論文にするように助言し、論文作成の指導を行った。	県外の臨床検査技師 1 名	医学検査に掲載予定
大崎博之	尿沈渣コンサルテーションシステムの構築の検討	尿沈渣の疑問症例についてコンサルテーションを受けているが、その効果について学会発表と論文執筆の指導を行った。	県外の臨床検査技師 1 名	・第 32 回高知県医学検査学会 ・高知県臨床検査技師会学術研究誌「こうち」

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方 の相談対応

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
草薙康城	一般	愛媛県の事業である「生涯を通じた女性の健康支援事業」における不妊相談アドバイザーとして、不妊症患者の相談を行った。	月 1 回 (心と体の健康センター)
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
脇坂浩之	西条中央病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月までの耳鼻咽喉科患者、頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・メール
南貴子	報道局記者	生殖補助医療をめぐる法制度一般について、情報提供を行った。	電話
南貴子	報道局記者	オーストラリアにおける生殖補助医療をめぐる法制度に関して、数回にわたり情報提供を行った。	メール
窪田 静	在宅看護・リハ従事者	福祉用具や住宅改修適応や方法等の相談	電話・メール
窪田 静	県内の重度障害者	福祉用具や住宅改修適応や方法等の相談	来校
窪田 静	愛媛新聞連載記事を読んだ県内の重度障害者	福祉用具や住宅改修適応や方法等の相談	訪問
窪田 静	愛媛新聞連載記事を読んだ県内の重度障害者	福祉用具や住宅改修適応や方法等の相談	メール
中平洋子	専門職：看護師	実習指導に関する評価について情報提供を行った。	メール
入野了士	専門職：保健師	地区診断、地区分析等の用語の使い分けについて情報提供を行った。	電話・メール
北原悦子	専門職：看護師(県内の病院)	学会発表にむけての抄録・発表原稿、スライド作成について助言を行った。	電話・メール
北原悦子	修士課程学生(県外の大学)	本学での卒業研究を専門商業誌に掲載するに当たり、原稿作成の助言を行った。	電話・メール

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
北原悦子	専門職：看護師(県内・ 県外の病院)	日本看護管理学会会員入会の推薦状の依頼（2件）	電話・メール・書類
豊田ゆかり	専門職：看護師（県内の 病院）	学会発表に向けての抄録の内容・作成について助言 を実施した。	電話・メール・面接
上野恭子	一般母親	授乳中での妊娠で、今後どのようにしたらいいか。 また受診病院相談	電話・メール・直接面談
上野恭子	一般学生	自己の性に関すること、病院情報	メール3回
枝川千鶴子	専門職：看護師(県内の 病院)	研究計画書作成や学会発表にむけての抄録作成につ いて助言を行った。	電話・メール
藤原紀世子	専門職：看護師(県内の 病院)	学会発表にむけての抄録作成や発表について助言を 行った。	電話・メール
西田佳世	専門職：看護師1名(県 内総合病院)	学会発表演題の抄録作成およびポスター資料作成の 助言 (26.3月学会発表済)	電話・メール・面談
西田佳世	専門職：看護師1名（県 内総合病院）	院内の調査研究結果のまとめ方、学会発表演題の抄 録作成の助言（26.3月演題応募済）	電話・メール・面談
西田佳世	専門職：看護師1名、歯 科衛生士（県内総合病 院）	データ分析方法の助言、学会発表演題の抄録作成の 助言、口演原稿作成の助言、口演発表方法の助言 (25.10月学会発表済)	電話・メール・面談
島田美鈴	愛媛労災病院看護部教 育委員の看護師長	2つの部署より看護研究計画について、研究方法の 妥当性について相談があり、助言をした。	郵送・メール
岡村絹代	専門職：介護福祉士	学会発表に向けての資料の作成および発表に関する 助言を行った。	電話・メール・来校
岡村絹代	専門職：社会福祉協議会 職員	ふれあいサロン参加者に対するフットケアの導入に ついて、情報提供と技術指導を行った。	電話・訪問
岡村絹代	専門職：老人福祉施設管 理者	老人福祉施設における看護計画・看護記録の書き方 と整備についての助言と、執筆した季刊誌購入のた めの情報提供	メール
則松良明	専門職：細胞検査士(岡 山県、広島県、福岡県、 奈良県等の複数の施設)	子宮内膜、子宮頸部の細胞標本の診断について助言 を行った。	標本を送付してもらい 鏡検し、結果を電話・メ ールにて報告した。
則松良明	専門職：細胞検査士(岡 山県、広島県、奈良県等 の複数の施設)	研究およびその成果を学会発表するための原稿作成 についての助言および指導を行った。	電話・メールおよび施設 へ出向き直接指導した。

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	骨髓標本において出現している細胞について、血液疾患の可能性の助言を求められた。骨髓標本を検鏡した結果を電話で報告し、細胞の写真をメールで送信した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	好酸球増多の疾患について助言を求められ、好酸球増加症についてまとめたものをメールで送信して助言を行った。	電話にて相談を受けた。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	末梢血標本と骨髓標本について、血液疾患の可能性の助言を求められた。検鏡した結果を電話で報告した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	3名の末梢血標本について、血液疾患の可能性の助言を求められた。検鏡した結果を電話で報告した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	末梢血標本と骨髓標本について、血液疾患の可能性の助言を求められた。検鏡した結果を電話で報告した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	凝固検査の異常結果について相談を受け助言を求められた。別の試薬による追加試験を行ってもらうべく、施設を訪問して助言した。また、その結果の報告についても助言を求められ、適切な学会での発表を促した。	電話にて相談を受け、データをメールで送ってもらった。
坂東史郎	専門職：愛媛県臨床検査技師会	メールと郵送により、依頼された愛媛県臨床検査技師会誌の投稿論文2編について査読を行った。	郵送にて依頼を受けた。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	末梢血標本について、出現している異常細胞に関する助言を求められた。検鏡した結果をメールで報告した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	末梢血標本と骨髓標本について、血液疾患の可能性と異常細胞の形態学的特徴について助言を求められた。検鏡した結果を電話で報告した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	骨髓に出現している細胞の写真について細胞の分類の助言を求められた。写真の細胞の種類をメールで報告した。	メールで写真画像を添付して送ってもらった。
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	2名の末梢血標本について、血液疾患の可能性の助言を求められた。検鏡した結果を電話で報告した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
坂東史郎	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	末梢血標本について、血液疾患の可能性の助言を求められた。検鏡した結果を電話で報告した。	電話にて相談を受け、標本を郵送してもらった。
高田智世	臨床検査技師	病院で遭遇した血液腫瘍における稀な染色体異常について、学会発表を行うため、その検査結果の解釈について助言した。	電話
大崎博之	専門職：臨床検査技師 (県外)	尿沈渣疑問症例（3例）についての助言と指導を行った。	標本の鏡検
大崎博之	専門職：臨床検査技師 (県内)	泌尿器細胞診（1例）についての助言と指導を行った。	面談
大崎博之	専門職：臨床検査技師 (県内)	泌尿器細胞診（2例）についての助言と指導を行った。	標本の鏡検
大崎博之	専門職：臨床検査技師 (県内)	体腔液細胞診（17例）についての助言と指導を行った。	標本の鏡検
佐川輝高	一般(株式会社ライフサイエンスクリエーション)（県外）	採血用静脈検出システム開発に関する助言と指導を行った。	面談

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏 名	支援した会の名称 と構成メンバー	支援した会や団体の特性 (目的、活動内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
宮内清子	公衆衛生看護活動に関する自主学習会 「ざくざく」 構成メンバー：愛媛県内の保健所・市町・地域包括支援センター・行政機関等に就業している保健師 約 30 名	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研さんすることを目的に自主的に結成した学習会で、12 年目を迎えた。 隔月開催で、平成 25 年度は、メンバー各自が年度当初に立てた目標に向かって実践し、6 回の学習会で報告・共有するとともに討論を行った。また、各メンバーのキャリアアップ等をテーマに実践報告を行うなど、討議方式で研修を行っている。	スーパーバイザーとして参加、ミニ講義、情報提供、テーマ学習への助言などの役割を担っている。
宮内清子	日本 ALS 協会愛媛県支部 構成メンバー：愛媛県内の ALS 患者・家族・支援者等	愛媛県内の在宅 ALS 患者・家族・支援者などで組織しており、総会・学習会・広報活動などを行っている。本学の学生祭には 3 年前からバザー・署名活動などの目的で参加し、学生との交流も少しずつ進んでいる。	「顧問」として、保健医療の専門家の立場から、社会的支援等の助言・支援、情報提供、相談に関わっている。
宮内清子	NPO[チャイルド・オレンジ・ネットワーク] 構成メンバー：子ども虐待を含む地域の子育て支援に関心のある社会福祉士、民生児童委員、臨床心理士、保健師等	子どもの虐待防止を含む地域の子育て支援活動に取り組んでいる NPO で、松山市青少年センターを拠点に、相談活動、各種研修事業、意識啓発活動などを草の根的に推進している。また、社会福祉士会等の団体や児童相談所等とのネットワーク構築を目標の一つに掲げ、希薄になりつつある地域の繋がりや家族関係を修復していく活動を積極的に展開している。	NPO が取り組む各種事業の方向性の検討や、研修事業の企画・実施・評価等に、必要に応じて助言者的な立場で関わっている。
加藤徳雄	NPO 科学を楽しむ会ほうしこ	小学生に科学教室を提供し、科学と生活の関わりを実感しながら科学的な思考を育む手助けをすることを目的とする。砥部町内の公民館や児童館を巡回し、全 5 回の理科実験教室を開催した。	運営・実施
野本百合子 青木光子 岡田ルリ子 徳永なみじ 相原ひろみ	看護技術教育検討会 (愛媛県下の看護職養成機関に所属する教員)	愛媛県下の看護師養成機関に所属する教員によって結成され、看護技術教育に焦点をあてた検討会である。共同で研究活動を行うとともに、県内看護教員を対象とした夏合宿の開催、報告書の発行等、看護技術教育の向上に向けた活動を実施し、情報の発信・交換を行っている。	事務局を担う 会場の提供 会員として、定例会や夏合宿の企画・立案などの活動に参加

氏 名	支援した会の名称 と構成メンバー	支援した会や団体の特性 (目的、活動内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
野本百合子 (企画・運営・講師) 徳永なみじ (企画・運営) 青木光子・岡田ルリ子・相原ひろみ (運営)	愛媛県看護教員 継続教育研修 (愛媛県下の看護職養成 教育機関に所属する教 員)	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画 立案段階から関与し、研修会ⅠからⅣまでの４回 にわたって研修会開催時の運営にあたった。	研修会の企画立案 外部講師との調整 研修会での講師・司会 会場の調整・提供
窪田 静	愛媛福祉用具ケア技術研 究会	第２回えひめ福祉用具フェアフロアーセミナー	講師養成 教材作成指導 継続勉強会の企画運営 と指導
豊田 ゆかり	ドーナツプロジェクト	訪問看護ステーションに併設している児童デイサ ービスの子ども達への支援に関して、愛媛大学医 学部付属病院の医師・看護師・保育士等と訪問看 護師等が定期的に情報交換及び学習会を開催し た。	定例学習会の助言
上野 恭子	LD 及び周辺児・者親の会	子供たちの自立のため講演会・研修会の全体の活 動の開催 グループ活動・サークル活動の実施による会員の 交流	研修会の企画運営の助 言および講師
上野 恭子	円ブリオえひめ	いのちの勉強会、講演提言、平成 26 年度講演会企 画提言	研修会の企画運営の助 言および講師
藤原紀世子	NPO 法人とベ子育て支援 団体ぽっかぽか	「とベ子育てフェスタ 2012」におけるとベキッズ 対象の看護師お仕事体験の講師	砥部町民
藤原紀世子	NPO 法人とベ子育て支援 団体ぽっかぽか	町民一人一人及び各団体や地域・企業における 個々の活動を通じて地域社会全体で、子育て・子 育てを支援する。 今年度は「とベ子育てネット ワーク会議」と「とベ子育て手帳」作成の企画会 議を開催した。	会議の参加と「とベ子育 て手帳」作成の助言
中西純子	高次脳機能障害者を支え る会（家族会）「あい」	愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎 月１回の例会で、当事者とのレクリエーションや 家族との情報交換、相談支援をしている。	顧問として相談、助言

氏 名	支援した会の名称 と構成メンバー	支援した会や団体の特性 (目的、活動内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
則松良明 坂東史郎	NPO 法人とベ子育て 支援団体ぽっかぽか	とベ子育てフェスタの1企画である「とベキッズ お仕事体験」に参加、体験することにより、働く ことの喜びを知ってもらうため、毎年1回実施し ている。対象は幼児～小学生で親子での参加が基 本となっている。	臨床検査技師の仕事の 説明と、血液型判定を行 った。
坂東史郎	NPO 法人 ラ・ファミリ エ	「子どものいのちと体を守るお仕事体験」を通し て、子ども達の将来の夢や仕事に関する情報を提 供し、子ども達が将来社会の一因として育つこと を願い子ども達が主体となって参加し夢や仕事を 考える機会となる事業を行うことを目的とする。	臨床検査技師の仕事の パネル展示と顕微鏡観 察や血液型判定を行っ た。
佐川輝高	科学を楽しむ会ほうしこ	砥部町近辺の子ども対象の夏休み理科教室「目で たしかめよう」(計5回)の企画立案、子どもゆ め基金からの予算獲得、実施、講師を務めた。	一般

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	愛媛県介護保険審査会	県内市町における介護保険事業の実施において、住民から出された各種の申し立てに対する審査を実施する組織で、弁護士・保健福祉分野の専門職・公益代表等で構成されている。	保健福祉関係委員
宮内清子	愛媛県介護予防市町支援委員会	市町の介護予防に関する施策の円滑な推進を目的に、平成 18 年度から設置されており、市町の介護予防事業の進捗状況の把握及び事業評価、地域包括支援センターの運営支援、介護予防事業のプログラム開発及び指導教材作成等を行っている。平成 24 年度は、前年度に改定した「介護予防に関する指針」を用いて、「複合プログラム」の試案づくり、モデル事業の実施と評価、運動指導の DVD 作成等に取り組んだ。	委員長
宮内清子	愛媛県高齢者保健福祉計画等推進委員会	平成 11 年度から愛媛県の高齢者保健福祉対策に関する計画策定、進行管理、進捗状況及び成果の評価などを行う目的で設置されており、3 年ごとに実態把握・評価を行い計画の修正を行っている。平成 25 年度は、第 5 期計画に基づく事業の進捗状況の確認・評価を行うとともに、平成 27 年度の第 6 期計画策定に向けて準備のための情報収集活動やスケジュール検討をスタートさせた。	副委員長
宮内清子	松山市社会福祉審議会	高齢者専門分科会、民生・児童委員審査専門分科会に所属し、担当分野の審議を行う。平成 25 年度は、第 5 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進行管理、民生委員交代の審査等に関わった。	委員（学識経験者）
宮内清子	松山市社会福祉施設整備審査会	高齢者福祉施設、障害者福祉施設、児童福祉施設等の設置・改修などのが適正に行われることを目標に、申請書類の審査、ヒアリング、修正指導などを審査会の委員として担っている。特に、対象者の自立支援や災害時の支援の必要性、耐震化の問題等、全国的な課題を踏まえての検討に注力している。	委員（学識経験者）

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	日本地域看護学会	地域看護学の学術的発展と教育・普及を目的とする学会。 評議員会に参加し、学会運営等に関する協議を行う。 また、平成 24 年度から、学会誌の査読委員を務めている。	評議員、 学会誌査読委員
宮内清子	新居浜市地域包括支援センター運営協議会	新居浜市の介護予防事業の要である地域包括支援船体の運営に関する外部機関として設置されており、センター事業の的確かつ公平・公正な運営に関して助言・支援・評価を行う。また、市町が認可する介護予防関連施設の選定について、諮問を受ける。	委員（学識経験者）
宮内清子	松山市社会福祉協議会 社会福祉活動推進委員会	松山市の委託を受けて、松山市社会福祉活動計画の策定をはじめ地域福祉活動の計画（なもしプラン）の策定・進行管理、地区社会福祉協議会活動の支援を行う。	委員、アドバイザー
宮内清子	西条市介護保険事業計画策定委員会	平成 11 年度から介護保険事業計画の策定、進行管理、事業の評価等を目的に設置されており、3 年ごとに実態把握・評価を行い計画の見直しを行っている。平成 25 年度は、23 年度に策定した第 5 期計画の進行管理、災害に対する高齢者施設等の体制整備に関する規則等の整備について役割を果たした。	委員（学識経験者）
宮内清子	松前町高齢者福祉計画策定委員会	平成 11 年度から介護保険事業計画の策定、進行管理、事業の評価等を目的に設置されており、3 年ごとに実態把握・評価を行い計画の見直しを行っている。平成 25 年度は、23 年度に策定した第 5 期計画の進行管理、介護保険サービスの資質向上について検討を行った。	委員（学識経験者）
宮内清子	愛媛県精神医療審査会	愛媛県内の精神保健福祉法に基づく医療保護入院の申請書類について審査を行い、記載内容の適切性、医療保護の必要性・妥当性について審査を行う。	委員（専門職）
宮内清子	愛媛県障害者介護給付費等不服審査会	障害者自立支援法に基づく介護給付について、市町の給付決定に対して不服がある場合愛媛県に不服審査の請求が出されるため、その審査を行うために設置されている委員会であり、審査事案が提出された際の審査に関わっている。	委員（専門職）

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	愛媛県看護協会「看護師等の育成に関する推進協議会」委員	愛媛県内の看護師等の研修の現状と課題を関係者が共通認識し、今後の育成の在り方を検討することにより、質の高い看護師等の確保・定着を図ることを目的に、平成 23 年度に愛媛県の委託事業として設置された。検討期間は 3 年間で、県内各地の特性やニーズに応じた研修体制の在り方について情報交換を行うとともに、2 年目の事業の進行について検討をスタートした。	委員(看護教育関係者)
宮内清子	平成 25 年度介護職員等によるたんの吸引等を実施するための研修委員会(不特定の者対象) (特定の者対象)	平成 23 年度の介護保険法一部改正により、一定の条件下において介護職員等のたんの吸引等の医行為を実施することができることになり、各都道府県が研修を実施する必要性が生じたことから、受講者の実技及び筆記試験の可否を判定する目的で設置された。25 年度は、長寿介護課及び障害福祉課の要請を受けて研修機関として参画し、事業の企画・運営・受講者の評価判定に関わった。	委員(専門職)
宮内清子	愛媛県障害児通所給付費等不服審査会	障害者総合支援法に基づく障害児の通所給付費について、市町の給付決定に対して不服がある場合愛媛県に不服審査の請求が出されるため、その審査を行うために設置されている委員会であり、審査事案が提出された際の審査に関わっている。	委員 (専門職)
宮内清子	松山市社会福祉事業団理事	松山市社会福祉事業団が実施する事業の計画・運営について協議する理事会の構成員として、各種社会福祉事業の運営が適正に実施されているかについて審議に加わっている。また、事業団の知的障害者の就労支援事業である『パンなどの販売事業』は本学の学生祭とのコラボレーションが実現し、双方にとって有効な事業になっている。	理事 (保健福祉学識経験者)
宮内清子	愛媛県看護協会創立 40 周年記念事業企画委員会	昭和 49 年、愛媛県看護協会は、保健師・助産師・看護師の職種別の部会から、愛媛県の看護職の組織として 1 本化された。平成 26 年度は、その 40 周年を迎えることから、記念事業の実施に向けて委員会を立ち上げ、企画・運営に着手することになった。これまで、理事・副会長などの役割を担ってきた立場から、本記念事業の企画・運営に参画する。	委員 (役員経験者)

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
草薙康城	日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会	産婦人科関連において発生した医療訴訟に関して、医療面、法律面よりの鑑定を行う	鑑定人候補
草薙康城	日本産婦人科内視鏡学会	本邦における産婦人科内視鏡手術研究の向上を図る。主な事業は学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員・査読委員
草薙康城	愛媛県産婦人科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するとともに、女性の健康を 保持・増進し、もって国民の保健の向上に寄与することを目的とする。	常任理事（学術、がん対策担当）、編集委員
草薙康城	愛媛県女性の健康支援事業連絡協議会	愛媛県における、女性の健康の向上に寄与することを目的とする。	委員
草薙康城	愛媛県妊娠と糖尿病研究会	愛媛県における周産期医療のうち糖尿病合併妊娠の管理を向上させることを目的とする。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人
草薙康城	愛媛県生活習慣病予防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、メディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行っている。	理事
脇坂浩之	喀痰吸引等研修実施委員会	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修」における実施委員会	委員
澤田忠幸	日本家族心理学会	家族心理学領域の研究を推進し、詩乃進歩及び普及に貢献することを目指して 1984 年に設立。年 2 号の学術雑誌（「家族心理学研究」）を発行している。	学会誌編集委員
澤田忠幸	日本乳幼児教育学会	乳児・幼児に関わる教育学、心理学、教育内容、教育制度などを学問的視座にたって研究を深め、学際的、国際的、総合的研究の発展と、乳幼児教育の振興に寄与することを目的としている。年 1 号の学術雑誌（「乳幼児教育学研究」）を発行している。	学会誌編集協力委員（査読委員）
加藤徳雄	NPO 科学を楽しむ会ほうしこ	小学生に科学教室を提供し、科学と生活の関わりを実感しながら科学的な思考を育む手助けをすることを目的とする。活動内容は公民館や児童館を巡回し、理科実験教室を開催する。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている。	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく。	候補者
鳥居順子	NPO 法人禁煙推進の会えひめ	喫煙の及ぼす有害性と禁煙の必要性を広く県内外に向けて啓発する。主な事業は世界禁煙デーに因んでの啓発活動、学校での喫煙防止教育、県や市町での禁煙啓発活動、研修フォーラムの開催。	理事
鳥居順子	第 86 回日本産業衛生学会	産業衛生に関する学術の振興と、勤労者の職業起因性疾患の予防及び健康維持増進を図り、もってわが国の学術と社会の発展に寄与することを目的としている日本産業衛生学会の学術集会（平成 25 年 5 月開催）の企画運営に参画。	第 86 回日本産業衛生学会・企画運営委員
野本百合子	日本看護教育学学会	看護教育学の発展を図り、広く知識の交流を深めることを目的として活動している。主な活動は、月 1 回の定例会と年 1 回の学術集会の開催、学会誌の発行等である。	理事長
野本百合子	愛媛県看護協会	愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年 1 回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催しており、その中で、教育講演「実践に活かすための看護研究」を実施した。	教育委員 第 33 回愛媛看護研究学会実行委員
野本百合子	愛媛県看護協会研修活用システム検討ワーキング（教育委員会下部組織・愛媛県看護協会）	愛媛県内の中小規模病院が、看護協会の研修会を有効活用できるようなモデルを示すための検討ワーキンググループを組織し、リーダーを務めている。	リーダー
野本百合子	新人職員研修推進協議会（愛媛県看護協会）	県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置された協議会であり、新人看護職員の研修体制及び指導者の育成のための検討や研修会を開催する。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	地域看護力強化検討会 (愛媛県看護協会)	県内のどの地域においても研修が受けやすい体制を整備し、また、近隣の医療機関同士が連携を深め、ネットワークの構築を図り、地域における看護力を強化し、以て看護職員の確保及び定着に資することを目的に設置された検討会であり、県下各地域における研修体制の整備及び研修プログラムなどについて検討する。	委員
野本百合子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第27回日本看護研究学会中国・四国地方会学術集会の企画・実行委員を担当した。	学術集会の企画・実行委員
岡田ルリ子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第27回日本看護研究学会中国・四国地方会学術集会の投稿論文の査読および実行委員。	投稿論文の査読および学術集会の実行委員
相原ひろみ	日本看護研究学会	日本看護研究学会は、広く看護学の研究者を組織し、看護学の教育、研究及び進歩発展に寄与する事を目的に発足した学会であり、学術集会の開催、学術講演会の開催、学会誌の発行、奨学会事業、関係学術団体との連絡、提携等の事業を通して学会の目的を果たしている。	学会誌査読委員
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会。評議員は会長・副会長の選出や学会総会に付議する事項等を審議する。	評議員
野村美千江	日本地域看護学会誌	地域看護学の学術的発展と教育・普及を図り、人々の健康と福祉に貢献することを目的とする。	査読委員
野村美千江	日本公衆衛生看護学会	公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とする。	教育研修委員 学会誌査読委員
野村美千江	日本在宅ケア学会誌	在宅ケアに関する学術活動並びに在宅医学会他の団体と協働した在宅ケアの推進	査読委員
野村美千江	日本家族看護学会誌	家族看護学の発展に帰する学術活動と交際交流	査読委員
野村美千江	大学基準協会大学評価委員会	大学の認証評価機関として、申請のあった大学の評価を行う。	分科会委員
野村美千江	全国保健師教育機関協議会	全国の保健師教育機関の発展と、保健師教育の充実を図るために全国規模で、教員研修会、保健師教育課程の検討、保健師国家試験対策、地区別のブロック活動を実施している。	国家試験対策委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野村美千江	愛媛県認知症施策推進会議	愛媛県における認知症施策を有効に推進する方略と市町支援について検討することを目的とする。	委員長
野村美千江	松山市自殺対策委員会	松山市自殺対策基本条例に基づき、市町の諮問に応じ、松山市自殺対策基本計画の策定および実施に関する事項を調査審議する。	委員長
野村美千江	愛媛県看護協会	人材育成や分野間連携にかかる課題解決等の職能活動を行う。	保健師職能委員
窪田 静	愛媛県看護協会	在宅ケア推進委員会	委員
窪田 静	三輪書店	作業療法ジャーナル	編集同人
窪田 静	愛媛県社会福祉協議会	第2回えひめ福祉用具フェア実行委員会	委員
田中美延里 奥田美恵 入野了士	日本看護研究学会 中国・四国地方会	本学で開催された第27回学術集会の運営に携わった。	協力員
田中美延里	日本地域看護学会	地域看護学の学術的発展と教育・普及を図り、人々の健康と福祉に貢献することを目的とする。主な事業は、学術集会の開催、学会誌の発行、研究活動の推進。第17回学術集会の演題の査読を行った。	査読委員
奥田美恵	愛媛県看護協会 まちの保健室運営委員会	愛媛県における「まちの保健室」の運営、ボランティア育成、看護の日記念行事の企画・運営を行った。	委員
奥田美恵	愛媛県看護協会 選挙管理委員会	平成26年度愛媛県看護協会役員・推薦委員及び平成27年度日本看護協会代議員等の公募を行った。	委員
奥田美恵	高知女子大学看護学会誌	看護の実践・教育・研究の発展に貢献する	査読委員
北原悦子	日本看護科学学会	社員（代議員）として年2回の例会参加・各催しの支援	社員（評議員）
北原悦子	日本看護科学学会	第33回日本看護科学学会学術集会 演題査読委員（6題）	演題査読委員
北原悦子	日本看護科学学会	第33回日本看護科学学会学術集会 座長（5題）	学術集会座長
北原悦子	日本看護科学学会	平成25年度表彰論文査読（英文3 和文5）	表彰論文査読委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
北原悦子	日本看護科学学会	平成 25 年 12 月 5 日 代議員大会議事録署名人の依頼	議事録署名員
北原悦子	日本看護管理学会	社員（評議員）として年 2 回の例会参加・各催し（地方セミナーなど）の出席と支援	社員（評議員）
北原悦子	日本看護管理学会	第 17 回日本看護管理学会学術集会 演題査読委員（6 題）	演題査読委員
北原悦子	日本看護管理学会	第 17 回日本看護管理学会学術集会 座長（5 題）	学術集会座長
北原悦子	日本看護管理学会	第 18 回日本看護管理学会学術集会（松山）企画委員	学術集会企画委員
北原悦子	日本看護学教育学会	学術誌 査読委員（25 年 1 題）	査読委員
北原悦子	日本看護学教育学会	第 24 回日本看護学教育学会学術集会 演題査読委員（4 題）	演題査読委員
北原悦子	日本看護診断学会	新しい看護診断用語の妥当性検討依頼（10 題）	査読委員
北原悦子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第 27 回学術集会の企画	学会企画委員
北原悦子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第 27 回学術集会の演題査読（4 題）	演題査読委員
北原悦子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第 27 回学術集会の座長（4 題）	学術集会座長
豊田ゆかり	松前町国民健康保険運営協議会	松前町の国民健康保険税に関する事、保険給付の種類及び内容の変更に関する事に関して、協議会に委員として参加し協議を行った。	委員（学識経験者）
豊田ゆかり	日本小児看護学会	第 23 回学術集会の企画・運営を担当。学会当日理事会・企画委員会合同企画のテーマセッションを開催し、ファシリテーターとして話題提供者との事前打ち合わせ、進行役を担当。	企画委員
豊田ゆかり	日本看護研究学会中国・四国地方会	第 27 回学術集会の運営	実行委員
上野恭子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第 27 回学術集会の運営	実行委員
上野恭子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第 27 回学術集会	演題査読委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
上野恭子	日本看護協会助産師職能委員会	「日本のお産を守れ！ プロジェクト」全国推進に関して、各都道府県の情報収集などを実施、それを基に様々な報告書を作成	検討委員全国 11 名
上野恭子	バングラデシュ・メヘルプール県看護学校設立プロジェクト委員	NPO 法人バングラデシュと手をつなぐ会が、バングラデシュの農村部において看護学校設立委員会の運営	委員
上野恭子	NPO 法人日本不妊カウンセリング学会	第 12 回学術集会での優秀賞の評価	委員
上野恭子 今村朋子 森久美子	全国助産師教育協議会	第 97 回助産師国家試験問題検討	委員
枝川千鶴子	日本小児看護学会	第 23 回学術集会の運営	実行委員
枝川千鶴子	日本小児がん看護学会	第 12 回学術集会のプログラムについて検討	プログラム委員
枝川千鶴子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第 27 回学術集会の運営	実行委員
枝川千鶴子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第 27 回学術集会	学会査読委員
枝川千鶴子	香川大学医学部看護学科	平成 25 年度香川大学看護学雑誌に投稿された論文の査読	原稿査読委員
枝川千鶴子	特定非営利活動法人ラ・ファミリエ	病気の子どもと家族をサポートする活動を計画・実施	理事
中越利佳	(一社)愛媛助産師会	会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年 1 回）の編集・発行、広報	広報委員
中越利佳	(社) 日本看護連盟愛媛県支部教育部会	指導に苦慮する若者への指導と題して 3 回の研修会を開催	教育部会オブザーバー
中越利佳	日本看護研究学会中国・四国地方会	第 27 回学術集会	学会査読委員
中越利佳	いのちの懇談会えひめ	生命尊重講演会の運営	理事
今村朋子	(公社)全国助産師教育協議会	広報委員会 ホームページ担当委員	広報委員
今村朋子	(一社)日本助産学会	第 28 回 日本助産学会学術集会 抄録査読	原稿査読委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
今村朋子	(一社)愛媛助産師会	会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行、広報グッズ販売管理	広報委員長
今村朋子	(一社)愛媛助産師会 東予地区会	東予地区役員として組織運営に携わることで、助産師活動の活性化と母子保健に貢献することを目的に活動。	監査役
森久美子	(一社)愛媛助産師会	理事会書記、教育担当 定例会議参加、研修会企画・運営、総会企画・運営	理事
森久美子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第27回学術集会の運営	実行委員
藤原紀世子	日本小児看護学会	第23回学術集会の運営	実行委員
藤原紀世子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第27回学術集会の運営	協力員
高田律美	日本産業衛生学会	第86回学術集会の運営	実行委員
高田律美	日本看護研究学会中国・四国地方会	第27回学術集会の運営	実行委員
井上明子	日本看護研究学会中国・四国地方会	第27回学術集会の運営	実行委員
中西純子	一般社団法人日本看護研究学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動 東北大地震被災看護学生に対する支援金の呼びかけと適正配分	大規模災害支援事業委員会委員
中西純子	一般社団法人日本看護研究学会中国・四国地方会	地方会活動として、学術集会の開催、研究活動の推進（学術セミナー）、ニューズレターの発行、運営委員会、学術委員会の開催等。	運営委員（学術委員委員）
中西純子	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会	学会の企画・運営全般を指揮	実行委員長
中西純子	日本看護診断学会	看護診断の発展、普及を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	評議員 学会誌査読委員
中西純子	愛媛県看護部長・教務責任者協議会	県内の看護の質の向上と医療の発展に貢献するとともに、会員相互の情報交換・研鑽を図る。年1回の総会および年2回の研修会開催	理事

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	平成 25 年度介護職員等によるたんの吸引等のための研修実施委員会（特定の者及び不特定の者）	研修の企画、準備、運営、実施 試験問題の作成、実施、合否判定	実施委員
中西純子	平成 25 年度愛媛県中小病院等看護体制支援事業	中小病院コンサルティング事業（申し出のあった病院にコンサルタントとして助言を行う） 前年度のコンサルティング事業対象病院のフォローアップ	検討委員（学識経験者の立場から）ならびに コンサルタント
中西純子	高知県立大学看護研究倫理審査委員会	左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどうか、外部委員として参加	外部委員
中西純子	高知女子大学学会	左記学会の論文査読を年 1 件程度担当	学会誌査読委員
西田佳世	日本糖尿病教育・看護学会	糖尿病教育・看護の専門家として実践に応用できる研究の推進。学会誌に投稿された糖尿病教育・看護に関する研究論文の査読。	学会誌専任査読委員
西田佳世	高齢者総合福祉施設ひろた 第三者委員会	施設利用者の権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用できるように支援する。利用者・家族の苦情対応および施設サービス向上の推進を図る。	第三者委員
西田佳世	日本看護研究学会中国・四国地方会第 27 回学術集会	日本看護研究学会の中国・四国地方の会員の研究活動の推進と成果報告。学術委員会の企画・運営。	企画委員 プログラム委員 査読委員 事務局
島田美鈴	日本看護研究学会中国・四国地方会第 27 回学術集会	第 27 回日本看護研究学会中国・四国地方会学術集会の投稿論文の査読および運営委員。	投稿論文の査読および学術集会の運営委員
島田美鈴	高知女子大学看護学会	高知女子大学看護学会の発展に貢献する。主な事業は、学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など。	学会誌査読委員
松井美由紀	愛媛県看護協会研修活用システム検討会議	愛媛県看護協会で開催される研修において、ラダーシステムの導入にむけての検討および評価	委員
松井美由紀	一般社団法人日本看護研究学会中国・四国地方会	地方会活動として、学術集会の企画、運営、開催および研究活動の推進（学術セミナー）等	運営委員・学術委員
松井美由紀	愛媛県がん看護実践に強い看護師育成研修会	愛媛県内のがん看護の質の向上を目的に、プログラム企画、実施・運営および評価を実施	企画連絡会構成員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
松井美由紀	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会	一般社団法人日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会での企画・運営等	企画委員 実行委員
松井美由紀	第33回日本看護科学学会学術集会	第33回日本看護科学学会学術集会（大阪市）での運営	実行委員
松井美由紀	第18回聖路加看護学会学術大会	第18回聖路加看護学会学術集会（東京都）での運営	実行委員
松井美由紀	リレー・フォー・ライフ・ジャパン in 愛媛 実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ・ジャパン in 愛媛 2013」の実行委員として企画・運営・評価を実施	副実行委員長
岡村絹代	愛南町愛なん食育プラン協働委員会	愛なん食育プランの実践と中期計画の見直しに対して、年2回の食育推進協議会に参加し、プラン実践と中期計画の評価・修正について、助言、情報提供を行った。	委員
岡村絹代	愛南町ぎょしょく普及推進協議会	愛南町水産物の利用促進活動の推進と、ぎょしょく教育を柱とした、ぎょしょく普及活動の推進に向けて助言、情報提供を行った。	委員
岡村絹代	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会の開催を企画・運営委員として支援した。	企画・運営委員 抄録原稿査読委員
岡村絹代	愛南町城辺小学校（城辺小学校における食育推進の現状と課題分析と発表）	城辺小学校において実施している食育活動の効果について介入研究と課題の分析、愛南町食育推進大会での発表を支援した。	委員
西森旬恵	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会の開催を企画・運営委員として支援した。	企画・運営委員
梶原理絵	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会の開催を企画・運営委員として支援した。	企画・運営委員
小西円	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会	日本看護研究学会中国・四国地方会第27回学術集会の開催を企画・運営委員として支援した。	企画・運営委員 会計
小西円	第33回日本看護科学学会学術集会	第33回日本看護科学学会学術集会（大阪市）での運営	実行委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
升野博志	日本動脈硬化学会	動脈硬化学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会	リウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会の運営に参加。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会中国四 国支部会	中国・四国地区のリウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会四国支部の運営に参加。	評議員
佐田榮司	愛媛リウマチ研究会	愛媛県内のリウマチ診療の充実を図る目的で設立されている研究会の世話人として活動した。	世話人
則松良明	日本臨床細胞学会	臨床細胞学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
則松良明	日本臨床細胞学会	日本臨床細胞学会における春季大会、秋期大会の学術内容の企画に参画した。	プログラム委員
則松良明	日本臨床細胞学会	学会誌の査読を行う。	学会誌査読委員
則松良明	日本細胞診断学推進協会 細胞検査士会	臨床細胞学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	代議員
則松良明	日本臨床細胞学会愛媛県 支部	臨床細胞学愛媛県支部の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行。	幹事
坂東史郎	日本検査血液学会	血液検査学の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行、標準化事業の推進、国際化、認定制度の推進を基本として活動。	評議員
坂東史郎	日本臨床検査 自動化学会	臨床検査の自動化に関する研究や技術の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行などを基本として活動。	評議員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
坂東史郎	日本臨床検査自動化学会	毎年 1 回、血液検査機器技術セミナーを開催し、血液検査における種々の問題点を提起・討議し、広く一般会員に参加を呼びかけ、各施設においての技術向上を目的とする。	血液検査機器技術委員会委員
坂東史郎	日本臨床検査自動化学会	日本臨床検査自動化学会会誌の論文査読を行い、論文の充実を図る。	査読委員
坂東史郎	(社) 日本臨床衛生検査技師会	血液検査の精度向上と標準化を目的に血液検査のサーベイ（血算部門、凝固部門、形態部門）を企画、実施する。そのデータを解析し報告書を作成して、精度向上と標準化を啓蒙していく。	精度管理調査 WG 委員
坂東史郎	四国臨床検査技師協議会 血液検査研究班世話人会	四国地区の臨床検査技師の知識の習得と検査技術の向上を目指して、年に 2 回の研修会を実施するための企画立案を行う。また、研修会では講師や実習指導を担当する。	監事
坂東史郎	四国ナノピア凝固・線溶研究会	四国地区での凝固・線溶検査の検討および医療における役割等に関し、情報交換や研究発表・講演等により会員相互の研鑽をはかると共に交流の場とする。研修会の企画立案や司会を担当する。	顧問
高田智世	松山市衛生検査所精度管理専門委員会	松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上を図るため設置されている委員会で、精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析や精度管理について指導監督を行う。	委員
高田智世	愛媛県衛生検査所精度管理専門委員会	愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上を図るため平成 2 年より設置されている委員会で、県内の登録衛生検査所に対し精度管理調査を行い、その結果に基づき、翌年度の精度管理事業を計画する。	委員
伊藤晃	愛媛県臨床検査技師会精度管理委員会	愛媛県内の病院検査室及び衛生検査所等における検査精度の質的向上を図るために、年 1 回精度管理調査を行い、結果報告会の開催や精度管理報告書を作成する。	委員長
岡田真理子	弓削商船高等専門学校運営諮問会議	弓削商船高専の教育研究の質を一層向上させるための外部有識者による評価組織。会議は学校側のさまざまな諮問に対し、提言を行う。	会議委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野島一雄	日本生理学会	生理学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
野島一雄	日本時間生物学会	生理学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員
野島一雄	日本臨床検査学教育協議会	臨床検査技師教育を実施する会員の資質の向上を図るため、情報交換、教育研究活動等を行い、もって臨床検査技師教育水準の向上と保健福祉に寄与する。	評議員
大崎博之	(公社) 日本臨床細胞学会	臨床細胞学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献することを目的とする。主な事業は、学術集会の開催、学会誌の発行、国際的研究の推進である。	評議員・地域連携委員会幹事
大崎博之	日本細胞診断学推進協会	細胞診専門医ならびに細胞検査士の知識、技能の向上のための研修活動を行うとともに、“正しい細胞診”について一般への普及啓発、あるいはそれに関連した諸問題の調査研究の推進ならびに細胞診を用いた検診等の事業を行う。	代議員
Hiroyuki Ohsaki	The International Academy of Cytology	The International Academy of Cytology is a scientific, non-profit organization of cytopathologists, cytotechnologists and other professionals concerned with research in and practice of clinical cytology.	Cytotechnologist Fellow

IV 学生の地域交流 活動報告



茶道サークル **SAKURA**



日々のお稽古は月2回、外部から先生をお呼びして、10月末の学生祭に向けてお点前の練習に励んでいます。

お抹茶をいただきながら、お花やお菓子から季節を感じ、普段味わえない「和」の雰囲気を楽しみながら活動しています。



学生祭



25年度の学生祭は「秋」をテーマにお茶会を開きました。着物や浴衣を着て、日頃練習してきたお点前を披露させていただきました。

学生だけでなく、多くの地域の方々にも来ていただき、茶道という普段の生活では触れることのない日本の文化を楽しんでいただけたのではないかと思います。

STS サークル

代表 加納 早紀

私たち STS サークルはボランティアサークルとして活動しています。松山市社会福祉協議会から月に一度届く「おせったい通信」や、独自で入手した情報、大学の先生方からの依頼を得て、その中からスケジュールに合わせ、自分たちが興味のあるボランティアに参加しています。平成 25 年度は主に以下の活動を行いました。

- ・ 特別養護老人ホームひろた 感謝祭
- ・ 愛媛県障害者スポーツ大会（愛媛県総合運動公園）
- ・ 献血（大街道献血ルーム）
- ・ リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2013 in えひめ（堀之内ふれあい広場）
- ・ 砥部町社協福祉フェスタ（砥部町中央公民館）

ボランティア活動を通して、様々な人とふれあうことができ、毎回多くのことを学んでいます。大変なことや困難なこともあります。一緒に活動するボランティアメンバーと助け合いながら、楽しく活動できています。今後も様々なボランティアに参加し、少しでも普段お世話になっている地域の皆さんの力になればと思っています。



手話サークル Sign

部長 秦 恵莉奈

私たち手話サークル Sign は、毎週月曜日の放課後に集まって楽しく手話を勉強しています。将来、私たちは医療従事者として働く人がほとんどです。なので、医療現場でのコミュニケーションがとれるよう医療手話も学び、将来に役立てるよう勉強しています。また、講師としてお二人のろうの方にお越しいただき、ろうの方と部員が交流しながら手話を学んでいます。

昨年の学生祭では、毎年恒例となっている手話コーラスを発表させていただきました。手話サークル Sign の活動の成果を学生祭に来て下さった皆さんに見ていただき、部員一同嬉しく思っております。皆さんに見ていただいたことで、私たちの自信となり、部員それぞれが目標をもって活動することができました。

手話の勉強をしていく中で、なかなかうまく相手とコミュニケーションがとれないもどかしさや悔しさがあると共に、相手に自分が伝えたかったことが伝わった時の嬉しさもあります。それらの思いを今後のバネにして、これからの活動に繋げていきたいと思います。



Peer サークル紹介

代表 高田華奈

私たち Peer サークルは、県内の高校や専門学校、大学等に行かせていただき、サークル活動を行っています。

Peer というのは、「仲間」という意味です。同年代の私たちが、学生たちと同じ目線、同じ立場で「性」について考えたり、自分の思いをどうやって相手に伝えるかを考えたりすることで、それぞれが自分らしさを見つけていくことを目的に活動しています。

性についての話は、人前で話すことに抵抗がある方が多いかもしれません。また、実際に活動していて気付いたことですが、性に関することで、悩みをもつ生徒や学生の多くが誰に話せばよいのかわからなかったり、そのような機会がなかなかなかったりして一人で悩むこともあります。そのため、私たち Peer サークルのメンバーが活動することで、生徒や学生は、友達と接するのと同じような感覚で話すことができる利点があると感じています。それにより、少しでも対象の悩みや疑問を解消したいと思っています。また、活動している中で、私たち自身学ぶことも多く、自分を見つめなおすこともできています。

まだまだ課題の多い私たちですが、これからも先輩方が立ち上げたこのサークル活動を充実したものにしていきたいです。そして、Peer の活動をたくさんの人に知っていただき、活動を広げていきたいと思っています。

高校でピアエデュケーションをしている様子
高校生たちもじっくり考えています（右）。



状況を設定し、「こんな時じぶんだったらどうする？」と、自分に置き換えて考えてもらっています（左）。

1. 学生ボランティア登録システムの活用

1) 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。

2) 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。自分の趣味・特技・資格・経験やどんな活動ができるか等を登録してもらい、その趣旨にあったボランティア活動を紹介します。

(2) 団体登録

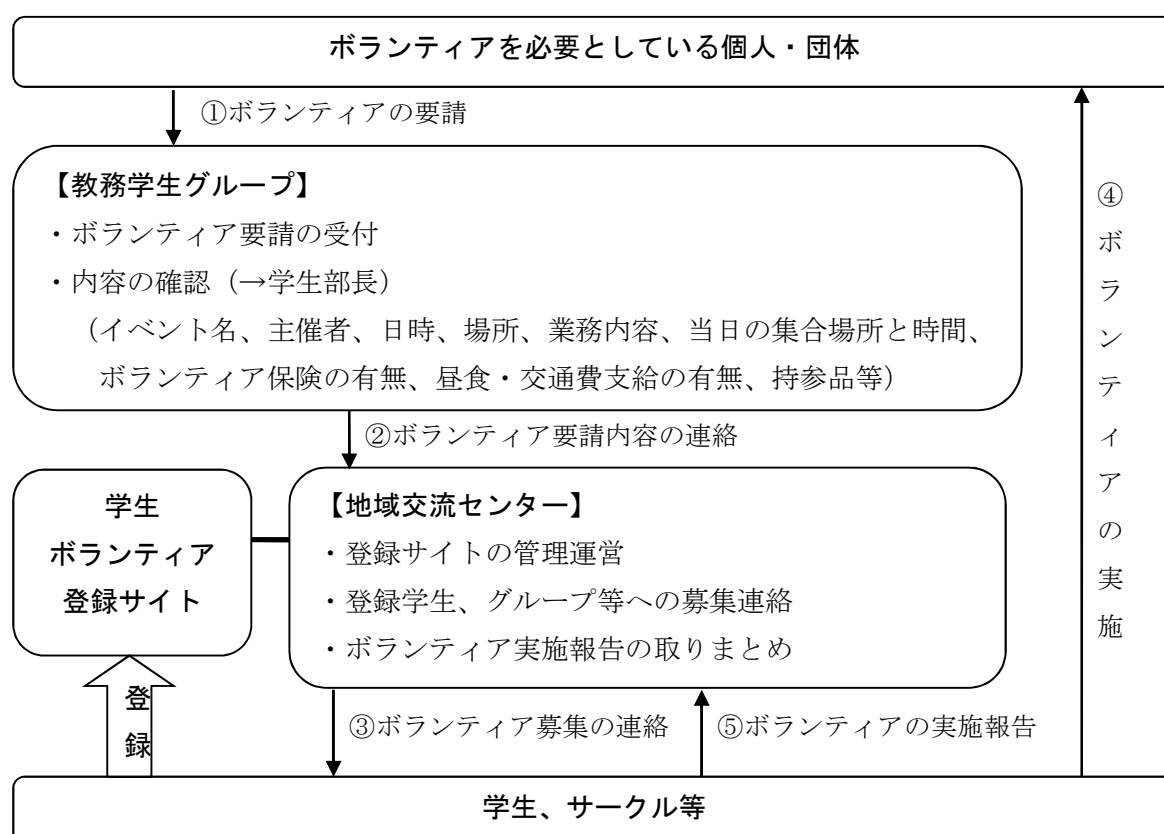
ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3) 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4) 登録、紹介の流れ



2. ボランティア登録制度の運用実績

- 1) ボランティア登録数 個人登録 31 名, 団体登録 1 団体(2014.3.31 現在)
- 2) ボランティア募集のメール発信呼びかけ件数 14 件
- 3) ボランティア活動の実績

学生ボランティア登録制度利用の実績 (平成 25 年度)

	名 称	主催	時 期	場 所	参加 学生数	活動の内容
1	とべ子育て ぽっかぽかまつり	NPO ぽっかぽか	6 月 30 日 (日)	砥部町 中央公民館	K&K 8 名	全体受付他 健康度測定コーナー
2	愛媛県障害者 スポーツ大会	愛媛県	5 月 26 日 (日)	愛媛県総合 運動公園	STS 23 名	大会運営補助, ソフト ボール投げと立幅 跳びの表彰場への誘 導係
3	とべ子育てフェスタ	NPO ぽっかぽか	6 月 30 日 (土)	砥部町 中央公民館	STS 8 名	お仕事体験ブース (看護師・臨床検査 技師の 2 ブース担 当)
4	夏休みキッズひろば (看護体験)	地域交流 センター	8 月 8 日 (木)	本学別館	2 名	子ども対象の「手洗 い」・「包帯巻」の 体験
5	夏休みキッズひろば (理科教室)	地域交流 センター	8 月 8 日 (木)	本学別館	3 名	子どもと保護者対象 の理科実験
6	リレー・フォー・ライフ (実行委員会)	えひめ 実行 委員会	10 月 13-14 (土日)	城山公園	STS サー クル中心 に 4 名	実行委員会のメンバ ーとして企画から参 加
7	リレー・フォー・ライフ (リレー参加・ボランティア)	地域交流 センター	10 月 13-14 (土日)	城山公園	95 名	24 時間リレーウォ ークほか
8	おもしろ理科教室	地域交流 センター	10 月 27 日 (土)	本学北棟	3 名	子どもと保護者対象 の理科実験
9		地域交流 センター	10 月 28 日 (日)	本学北棟	3 名	子どもと保護者対象 の理科実験

ボランティア参加学生数 133 名 (リレー・フォー・ライフを含む)

V 地域への施設開放 状況

Ⅲ 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用されている。

○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）がおこなっている、ストレッチ教室の火曜教室開催にあたり、施設開放をおこなっている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日 4月～9月 9：30～11：00

10月～12月 10：45～12：00

1月～3月 10：30～12：15

開催回数：年間 34 回

利用者：砥部町住民

利用人数：30 人程度/回、延べ人数 962 人

<参考資料>



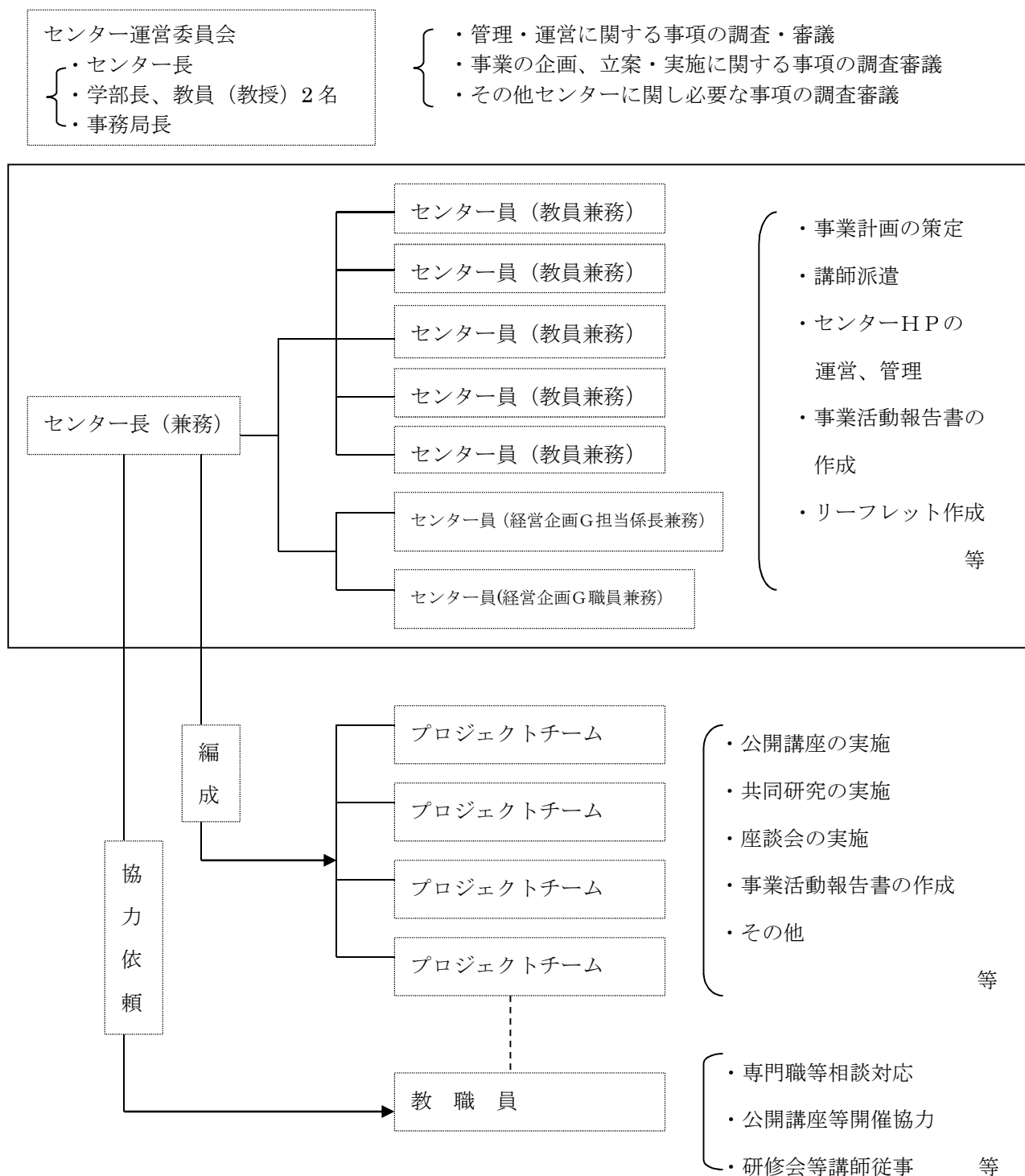
VI 参考資料

地域交流センターの組織（平成 25 年 3 月 31 日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の外、センター員 7 名（教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員 5 名）を設置している。

地 域 交 流 セ ン タ ー 運 営 図



公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程

平成 22 年規程第 11 号

（趣旨）

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

（業務）

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

（地域交流センター長）

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

- 2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。
- 3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

（センター員）

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

- 2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

（地域交流センター運営委員会）

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

（施設の利用）

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

（委任）

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

（趣旨）

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- （1）管理及び運営に関する事項
- （2）事業の企画立案及び実施に関する事項
- （3）その他センターに関し必要な事項

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- （1）地域交流センター長
- （2）本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- （3）事務局長

（任期）

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

（運営）

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

（庶務）

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

（補則）

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

【地域交流センター運営委員会】

委員長 野村美千江

(センター長)

委員 宮内 清子

(保健科学部長)

〃 高岡 亮

(事務局長)

〃 豊田ゆかり

(看護学科教授)

〃 則松 良明

(臨床検査学科教授)

【地域交流センター】

センター長 野村美千江

(看護学科教授)

センター員 加藤 徳雄

(看護学科講師)

〃 岡村 絹代

(看護学科講師)

〃 中越 利佳

(看護学科講師)

〃 岡村 法宜

(臨床検査学科助教)

〃 堀内 新也

(事務局経営企画グループ担当係長)

〃 三好 陽子

(事務局経営企画グループ専門員)

愛媛県立医療技術大学地域交流センター活動報告書 (平成 25 年度)

発行 平成 26 年 8 月

編集 愛媛県立医療技術大学地域交流センター

〒791-2101 愛媛県伊予郡高尾田 543 番地

TEL (089) 958-2111

FAX (089) 958-2177

E-mail center@epu.ac.jp
